市場零聞

[illegible]事に寄付たるも賣物多く[illegible]大阪四節二十六錢五節十錢丁度と[illegible]て暴落の臨時入電にて五十九錢と崩れたるも大阪七節十九錢八厘二十三に引返し居れりとの移に支へ六十三錢と返し二錢と散會

▲前場の商戰 （㊂二千七百石）
買三千百石賣今百石賣五百石買三千[illegible]六百石賣六百石買へ九百石賣千六百[illegible]

ざるより入電六十八錢と同歩に寄付たるも賣座勝にて頭直き折柄大阪の暴落入電にて五十九錢と崩れたるも安値は賣甲も突込み來らず先利喰に支へたるか大阪引返しの報にて六十三錢と返し二錢と不勢の寄合に[illegible]和にて大に殺到せん氣勢を示し押目は透さず喰進き居るより市場は恰も執派の評判にて新値は新動因の來るを俟つ者の如く斯る成行なるより一般の人氣は益強氣り來りたるが却說も今後如何なる變動を顯出するならん

京城正米

一時期米の立前り模様と出廻薄に[illegible]

大安米 五四叺 芙江米 七〇〇叺 水原米 二二叺 [illegible]泉米 四叺
水原大豆 一九叺 水原白米 六〇叺 水原大豆 一一〇叺

仁川米豆取引所

五日の十二月限

寄附 八、六八 止め 八、七〇 高値 八、六八 安値 八、六[illegible]
六安 二安 七安

段値 三節 八圓六十一錢 四節 八圓六十二錢 五節 八圓六十二錢
買 賣 取組高

[illegible]値元氣は[illegible]三十八圓の出來にて平凡の値段に復せり サワラ九、スズキ六、ヒラス九、ヤツ六、ヒラメ六、ハモ五、アナゴ七

朝刊と合せて八頁

本紙定價 一ヶ月金六拾五錢 三ヶ月金壹圓九拾錢 六ヶ月金三圓七拾錢
廣告料 五號活字一行金七拾錢 二號活字一行 [illegible]
發行兼編輯人 [illegible] 印刷人 [illegible]
發行所 京城日報社 電話 [illegible] 振替貯金口座京城二〇〇番

列強大戰

▲最後通牒 露國對勃牙利

露國は勃牙利に對し最後の通牒を交付せり（倫敦電報）

▲一致加擔 羅國聯合國へ

ブカレスト（羅馬尼）來電に曰く、羅馬尼の民主黨保守黨の人々は一致して聯合國に加擔することに決定せり（倫敦電報）

▲露國訓令 勃國駐劄公使に

露都來電に曰く、露國政府は勃牙利駐劄露國公使に對し二十四時間以內に勃牙利が公然獨逸と其關係を斷ち勃牙利に到著せる獨墺將校を斥くるに非ざれば勃牙利を退去す可しと訓令したり（紐育電報）

▲依然險惡

形勢は近頃大に改善せるもドウインスクは未だ敵に包圍さるゝの危險を脫し得たりと稱する能はず敵は沼湖地方、ドリスヴリアチーの東南地方を保持し居れり敵のリーヴエンホフ砲擊は獨軍がデュナ河に近接し砲火の射程以內に迫れるを示すものなり（露都電報）

◎前帝總統婚約說

上海支那新聞の報ずる所に據れば北京に於て宣統帝と袁總統令孃との婚約整ひたりと傳へ居れり（東京特電）

◎議會召集

五日官報を以て十一月二十九日議會召集の詔書ありたり（東京特電）

朕帝國憲法第七條及ヒ第四十一條ニ依リ本年十一月二十九日ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ召集ス

◎首相邸午餐會 交友俱樂部幹部招待

大隈首相は四日正午貴族院交友俱樂部幹部たる水野、鎌田、岡、橋本氏等を官邸に招待し午餐會を開き首相より一場の挨拶を爲し次いで時局問題に就き懇談する處ありて午後二時散會せり（東京特電）

◎福岡觀察團 福岡朝

鮮觀察團三十八名五日午前九時釜山著同十時卅分發列車にて京城へ向ふ（釜山特電）

◎柳副總裁等

柳勸業銀行副總裁、本山大阪每日新聞社長、井原代議士等四日夜木浦に來り觀察の後五日出發す可し（木浦特電）

◎小松原氏

小松原英太郎氏は五日午前九時釜山著同十時三十分發列車にて京城へ向ふ（釜山特電）

●此次の共進會には 工業製造品を主として 馬越恭平氏談

故伊藤公のお在の頃明治三十二年に初めて來鮮し其れから四十年と四十四年と既に三度來て是れで四度目だが來る度每に面目を變へて行く朝鮮の開發程度が著しく目に映つる今度は是非共金剛山を見たいと思ふ竹內老人（綱氏）が曾て見て大に其吹聽を受け其後種々の人から更に幾度となく聞いてゐたが其話が果して何の程度迄事實かを實見したいと思ふ世に金剛山を說く者は

▲東洋一の稱あり と言ふ果して東洋一とすれば其れは正に世界一であるアルプスと云ひ瑞西と云ひ世界に評判の個所も多いが皆人工を加へ金を掛けてやつたものである然るに之に反して金剛山は天與の風景である予は其れを見に來たのである共進會はまだ悠つくり見ないが金剛山からの歸へりに見る積りだ今度の共進會は農產物が主である是れ即ち朝鮮を語る

▲最も明瞭なもの ではあるまいか今日の朝鮮は農產物が主であるが其れにしても現に幾多の苦心があり進步がある、併しまだ朝鮮の工業は進むべき幾多の道を持つてると云はねばならない私は種々な工業に關係してるが殊に最も朝鮮の當局者なり當事者に注意して貰ひ度いものはビール釀造に就ての麥である幸に予の札幌麥酒は日本產の麥を使用してるが現に需要に不足勝ちである尙日本では五月六月頃になつて

▲大事な收穫の時期 になると降雨があつて殆んど必ず損害を受ける是れ大にビール釀造の發達に關係を及ぼす事であるが翻つて朝鮮を見るに天氣殊に此の時期に此憂がない之れ大に朝鮮に望みを置く所で若し朝鮮に此麥を作る事が出來るとすれば單に札幌麥酒が益するのみならず朝日、麒麟、櫻等のビール會社でも必ず需要すべくさうなれば單に會社の利益問題でなく國際的の利益となる

▲現に戰爭の爲め 戰前獨逸から供給を受けてゐたのを米國から取る事になつてる其れが日本で出來る事になればどんなにいゝか知れない、出來たものは總て買占めてもいい私は敢てさう云ひ度い若し試作したいと思ふ確實な耕作者があらば麥種を献呈してもいゝ、目下の處此麥に就て著しく感じた事であるが今後の朝鮮が益々產業的に開發せられて行くと同時に工業的にも步を進めて此次の共進會には是非共工業的大共進會を拜見する事が出來る樣にして貰ひ度いと思ふ

◎宮殿下奉送

閑院宮同妃兩殿下には五日午前七時三十分龍山驛御出發、御召列車にて御退鮮の途に就かせられたること別項所載の如くなるが此日寺內總督は森、白井兩武官並に大藤副官を隨へ井口軍司令官、立花警務總長等と共に釜山まで奉送し、森武官は更に神戶港まで扈從しまつれり

◎豫算案交涉 河內山課長東上

朝鮮總督府大正五年度豫算は九月下旬既に中央政府に送附したるは當時所載の如くなるが河內山司計課長は之れが說明並に交涉の爲め明細書携帶築田屬を隨へ六日午前八時三十分南大門發汽車にて東上に決せり而して荒井長官の東上期は未定なるも遠からず出發す可しと

◎水產大會日程

朝鮮水產組合の發企に係る水產懇話會は七八の兩日午前九時より中央試驗所講堂に開催に決せり當日の講演

◎白仁民政長官

關東都督府民政長官白仁武氏は五日午前九時三十分總督府に山縣政務總監、兒玉總務局長を訪問せり氏は同日午後九時四十分南大門驛發汽車にて退京す

◎坂出技師出發渡歐

子息死去の爲め出發を延期しありし坂出技師は四日午後七時五十分南大門驛發列車にて愈々渡歐の途に上れり

◎三島理事歸任

病氣療養の爲め內地に轉地中なりし朝鮮銀行理事三島太郎氏は市原總裁逝去の報に接し五日午前八時五十分南大門驛著汽車にて歸任せり

觀覽團消息

▲開城三百三十八人▲龍仁四百人▲井邑百七十六人▲長水百十八人▲咸興百三十八人▲鎭川二百人▲光州百十五人（以上四日共進會觀覽）
▲開城二十八人▲交河六十八人▲天安五十八人▲高寧六十五人▲木川三十四人▲釜山五十人▲東萊百四十三人▲海州六十五人▲黃州百人▲潭陽四十五人▲順天百七十人▲青陽百四十八人▲河東五十八人（以上四日入京）▲鐵山六十三人▲溫陽二十四人▲牙山八十九人（以上五日入京）

◎河野遞相日程

六日より八日までに於ける河野遞信大臣の日程左の如し

▲六日午前李王殿下に訪問午後十時南大門驛發臨時列車にて元山に向ふ▲七日午前六時元山著築港狀況視察、午後一時卅分元山發臨時列車に投乘午後八時三十分南大門驛著▲八日午前九時十分南大門驛發平壤に向ひ午後三時二十分平壤著、午後三時五十分平壤發四時十六分寺洞著、平壤鑛業所視察の上午後五時三十分寺洞發列車にて平壤に歸り柳屋旅館に一泊

◎協贊會彙報

▲定例理事會 京城協贊會にては六日午後二時より理事會を開き「デー」計畫の件其他に就て協議すべしと

▲博多觀光團 一行五十餘名は同地方に於ける著名の實業家及び有志を以て組織し五日夜南大門著入京の筈なるを以て協贊會にては六日正午慶會樓にて歡迎會を催すべしと

▲代議士歡迎會 東京方面の代議士團一行三十五名六日夜南大門著入京の筈に付き協贊會にては七日慶會樓上に於て歡迎會を開く

▲四萬五千燭光 豫ねて協贊會より海軍當局に交涉中なりし四萬五千燭光の探海燈は來る十五日頃到著の筈にて到著の上は直ちに瀛陽公園に据付く可しと

▲師匠連に銀牌 演藝館に出演中なる兩檢番藝妓の舞踊敎授のため入京中なりし東京の師匠連に對し協贊會よりは感謝狀及び銀牌一組に目錄を添へ此程贈進したり

◎淺田男元山行

陸軍々事參議官淺田信興大將は入京中の處元山守備隊視察の爲五日午前八時元山行臨時列車にて同地に向ふ

共進會入場者

四日（月曜日・晴）

▲晝間 一萬二千八百三十八人

內地人	二千九百七十五人
朝鮮人	八千三百八十四人
支那人	三十一人
其他外人	十六人
無料者	一千四百二十四人

▲夜間 五千百八十人

內地人	一千百三十三人
朝鮮人	二千九百四十六人
支那人	三十五人
其他外人	十八人
無料者	一千〇四十八人

▲合計 一萬八千十八人

〈開場以來累計〉

▲總計 四十二萬七人

人事消息

▲小松原英太郎氏（東洋協會長） 五日午後九時南大門著入京の筈
▲村井吉兵衛氏（村井農場主） 四日釜山より入京
▲三島太郎氏（朝鮮銀行理事） 五日朝歸任
▲佐渡秀光氏（朝鮮皮革會社取締役） 同上
▲小澤男爵一行 六日朝出發平壤へ
▲古市、近藤、日下部三博士 五日朝元山（[illegible]）
▲樋口金次氏（光州土地調查官） 五日朝入京
▲佐々木源之進氏（海州地方法院長） 四日入京
▲村木寬三郎氏（馬山興業會社長） 同上 京不知火旅館へ投宿
▲芋川正義氏（釜山監獄典獄） 同上 出發歸任
▲川原顯慥氏（淮陽憲兵分隊長） 同上
▲松永武吉氏（平南道長官） 同平壤へ
▲伊藤三郎氏（咸北第二部長） 同元山へ
▲竹島六次郎氏（大邱府尹） 同歸任
▲與健藏氏（大藏省專賣局技師） 同平壤へ
▲後藤新平氏（男爵） 五日夜出發滿洲へ
▲中橋德五郎氏 五日朝出發木浦へ
▲鈴木隆氏（慶北道長官） 四日午後歸任
▲岩本以明氏（釜山地方法院長） 同上
▲橫井時敬氏（農學博士） 四日午前元山より入京
▲柯濱烈氏（釜山駐在支那領事） 四日歸任
▲右近和作氏（大阪實業家） 四日內地へ歸任
▲伊藤喜一氏（同上） 同上
▲王鴻年氏（支那外交部員） 四日內地より入京滿光館へ
▲向井巖氏（平壤覆審法院檢事長） 四日歸任
▲鐵道協會員 約二百五十名入京中の所五日午前元山へ
▲瀧口工學博士 五日一商入京更に奉天へ
▲島津需吉氏▲日野洋吉氏▲田淵秀藏氏▲片野文吉氏（鐵道協會員） 五日奉天へ

南言北語

近來獨逸の潜航艇が跳ね回らぬ樣になつたのは司令長官の交迭からかとも思つて居たの▲總數五十隻の中が最ふ既に四十隻近く擊沈せられたと云ふ▲海上の英國は無言のまゝ大活動して居るらしい▲其處で米國抔は大艦巨砲主義に傾いて來たと傳へらるゝ▲大艦巨砲主義と云へば日本でも大分やかましい問題だが將來の海戰は大艦巨砲でなくてはなるまい▲歐州の海戰を見て非大艦巨砲を說く人もある樣だが彼れは內海の戰爭だから其の樣な大艦が必要なものは用らぬ▲今後大海洋の眞ツ唯中で正々堂々とやるには潛航艇なぞは駄目だ四萬米突位が好射距離の大艦巨砲が必要だ▲何と云ても的確に遠距離から打つに限る▲歐洲の陸戰でも巨大な獨軍の重砲が頗る有利で英佛軍なども馬鹿に大きな奴を引つ張り出して成功して居る▲陸軍も海軍も將來は巨砲に限る事受合▲勃牙利もとうど土耳其の二の舞で前車の覆へるを見て後車を引つくり轉す相だ▲其れに對し露西亞が早くも勃牙利に宣戰を公布したのは上出來物は手つ取り早いに限る▲市原鮮銀總裁も宿痾遂に癒えず不歸の客となつた▲人格と云ひ手腕と云ひ天晴れな人であつたのに今此の人を失ふは朝鮮の爲めにも大損害である▲此の十日位以前に記者は共進會で總裁と邂逅した▲如何ですと問ふと何うも一日では見切れぬゆつくり最ふ一日見に來やうなど元氣は好かつたが何さま昔しの樣にはなかつた▲殊に四五年前成歡驛から十人がきの籠に乘つて稷山迄驅け付けて快愉々々と喜んだ時の元氣は此の頃見受けなかつた併し乍ら此の樣に早く哀音を耳にせうとは少しも思はなかつた實に案外だ▲十年以來能く其の謦咳に接して居た記者は今回の計に遇つて殊更ら痛悼に堪へぬのであるア、實に惜しい事だ

□平壤より 安江生

午前四時半曉霧を踏破して浮碧樓畔お牧の茶屋に投ず、お牧の茶屋はさ牧樓となすに適はしくなり居れり 稻城山人

霧晴れて綾羅島浮く秋日和

□村井吉兵衛氏母堂孝子刀自の吟懐

みのいれば實のいるまゝにかしらをばさぐるやいねの心なるらむ

怠らぬ人のちからはゆたかにぞみのれる秋の稻に見えたり

井上十吉先生 括据七箇年全精力を傾倒して本書大成す

井上 英和大辭典

申込分全部送本濟（九月廿八日）

●本書の使用は英語學上最良の能率增進法
●製本既に成る貴重なる本書の利用は諸君の意なり
▲全國各學校より本書備附及び採用の書狀續々到著其他個人よりの讃辭机上に山積す

▼續出する好評の一斑▲
●東京時事新報曰く、辭書編纂は單なる蒐輯にあらず此事業の歷史比較的新らしき我國にあつては殆と大創造的事業と云ふも過言にあらず、殊に外國語を邦語に譯さんとする英和辭典編纂に至つては其目に見えざる苦心の多くして之を完成するの難は殆ど言語の外にあり、之れ其成功の望は編纂者の語學的知識の豐富博大百般科學の識得の深遠、之に加ふるに組織的、獨創的の研究と能力等に依らざるべからず而して以上の才能を具備するもの現代の語學界に於て最も多大なる井上氏が以上の才能を具備する一人たるは何人も疑はざる處、殊に氏は辭書編纂に多年の經驗ある人、今氏が七年間の非常なる苦心努力の末に成れる本辭典始めて世に現はる編輯の後には校正の數囘ありそれと同時にスペルリング、アクセント、科學的専門語の譯語、等を統一すべき難關あり著者は此等の難關を征服して數校刪定十數回に及び恒に七版以上の組假を作りつゝ改訂に從事せりと云ふ、スペルリングにも米國式の短縮綴り方も網羅し古體をも加へ頗る大辭典を三冊も四冊も座右に備ふると等しき效果を擧げたり、以て本書の如何に卓越せる價値あるかを知るべく、試に前置詞をさんか特殊の働き方の場合を說明すること八項イデオムを註すること八十八項慣用句を擧ぐること九項續いて『に』を檢せんか副詞、前置詞、形容詞及び名詞として働きを別々に區分し之が爲に一頁を費せり、斯の如きはスタンダード、ウエブスターにも勝りて吾等の要求に適ひ殊に最新の文明の生みたる新造語に専門辭典以外に搜索の勞を要せざる科學語の譯註に出色の功を斷したる等英和辭典にして斯の如く完璧に近きものは殆んど稀なり

内容見本 申込次第送呈

▲語數實に廿萬語
▲紙數 本文二千三百二十六頁 附錄十頁
◎五寸六分 三寸二分
▼製本堅牢
◎定價金二圓五十錢
▲完成特價提供 特價貳圓廿錢 郵送料金十二錢 十月十日限

東京本石町 至誠堂 振替東京一七四

●即決即斷 前金相添申込あれ 即時送本

昨夜出發の際は御見送下され辱ふし難有奉拜謝候乍略儀以紙上御禮申上候

十月五日 坂出鳴海

細川侯爵閣下御入京に付熊本縣人相會し御歡迎申上度候間左記御承知の上萬障御繰合御來會被下度候

場所 南山町京城ホテル
日時 十月八日午後六時
會費 金參圓五十錢
出席申込所 十月七日迄に大和町三丁目小川靖雄方電話一八二二番（當日御持參のこと）

十月五日 歡迎會發起人總代 林市藏 阿部充家 佐々正之

主筆農學士柳川蝦洲 產業世界（十月號）

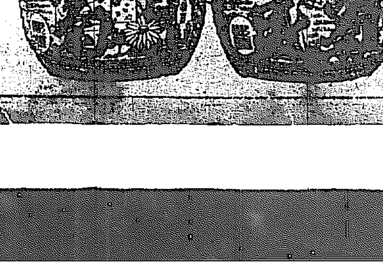
祝辭 伯爵 大隈重信
武富時敏
柳內主筆
向年團體の改善 男爵 後藤新平
經濟は三千年の光あり
國家と農業 農學博士 玉利喜造
京都の經濟的位地 法學博士 戶田海市
北海道の新長官 服洲山人
工業立國論 松井柏軒
家古へ當古へ 東白鳳
（小說）ふるさと 小林臘月
其他人物評、家庭、財界通信等每月一回發行一部二十錢郵稅一錢

東京市芝區三田小山町二 產業世界社 振替 三三三九

朝米 ㊣橋本猶作 電話長東 一五〇 五五二 三七一 振替口座大阪二一二七
致富之資無代進呈 前金註文は御紹介を要せず 大阪堂島米穀取引所仲買人

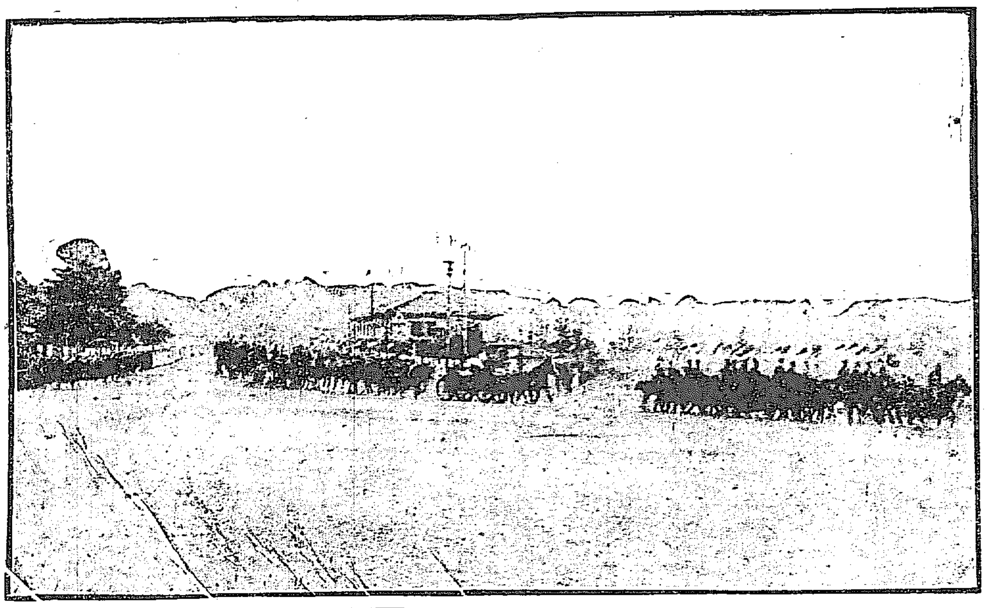
明治足袋 泉州堺市 三宅商會本店 長電話四二三番

冷卸發賣



釀造發賣元 大阪府堺市 肥塚源次郎
特約販賣店 京城本町二丁目 佐藤牧太郎
特約販賣店 同本町三丁目 明治屋支店

(二)(夕刊) 大正四年十月六日(水曜日)　京城日報　(明治卅九年八月十日第三種郵便物認可)　第二千九百三號


閑院宮兩殿下龍山停車場に向はせらる

閑院宮兩殿下御退京
漢江の朝霧遠く御召列車を送り奉る

九月廿八日仁川御上陸以來親しく朝鮮の風物を御覧遊ばされたる閑院宮載仁親王殿下同妃殿下には御退京仰せ出され五日午前七時卅分愈よ龍山驛御出發鐵路釜山へ向はせられたり、此日兩殿下共午前七時十分と云ふに御旅館總督官邸を御出門、御馬車の前には騎兵儀仗兵の先驅も嚴めしく後には寺内總督、山縣政務總監を始め目下入京中の淺田陸軍大將、後藤男爵、肝付海軍中將、河野農相、小澤男爵等供奉し續いて儀仗騎兵の一隊後備仕りつゝ龍山停車場に向はせられたるが沿道軍隊、學校生徒を始め一般拜觀者の堵を成し劍戟の光朝日に映えてあたりの光景壯嚴、粛を極む此日閑院宮殿下には陸軍大將の御正服に胸間金色燦たる大勳位菊花大綬章を佩ばせ給ひ洋装召されたる妃殿下と共に御同車遊ばされたるが兩殿下共御機嫌頗る麗はしく拜觀者に對しては有難き御會釋を賜ひつゝ七時廿分御著驛、直ちに貴賓室に成らせ給へば此所にては豫て御著驛を待ち給へる李王殿下同妃殿下の御出迎あり暫く御歡談の後驛て大屋長官中島驛長の御案内にて御召列車に御移乘プラットフォームには寺内總督、同夫人、山縣政務總監、井口軍司令官、同夫人、其他文武高官を始め淺田大將、河野農相等入京中の諸名士各國領事團並に赤十字愛國婦人會幹部、其他民間代表者の奉送あり、斯くて一同の最敬禮の裡に御召列車は徐々進發するや殷々たる禮砲の響きと嚠喨たる喇叭の音起り正七時卅分南行遊されたり御召列車には寺内總督始め李王殿下御名代、李太王、李埈公李堈公各殿下の御名代、井口軍司令官、川村師團長等扈從し奉り釜山まで御見送り申上げたり

朝鮮の家庭の明日
棚橋絢子女史、濱尾夫人、伊集院夫人の朝鮮婦人生活の合評

京仁線北行列車の最後尾に連結した二等車の中程、四人の婦人客が相對して席を占めてゐる＝四日午後一時二十分＝そこへ一記者が加つて喧しい機の軋りの間に切れ〳〵の會話が交はされる。

座席の上に端然と膝を折つて座つた切り下げ髪の上品な老媼は棚橋絢子女史『朝鮮の婦人は裁縫は大變上手ださうで御坐いますね』と隣席の高橋夫人の言葉を受けて、女史は黒の羽織の袖を膝の上で合はせ乍ら

□朝鮮の家庭にもミシンを使ふ事を敎へたら□

餘程手がはぶけて、交際に出たり、色々世の中の爲になる外の仕事にも携はる暇が出來るだらうと思ひますね』と向ふ側の濱尾男夫人と伊集院子夫人とを等分に『却々朝鮮の婦人は仕事が多くて家事のごた〳〵した事丈でも手を退く時は無いさうで御座いますものね』と語る『今の女學生が卒業すればミシン等も大分朝鮮の家庭に入るだらうと思ひますが』と濱尾夫人『朝鮮の女の服裝は皆揃つてゐて便利の樣ですが、いゝ方々のは別として下々の方のは少し縫りが無い樣でございますね、子供の負ひ方も最少し何んとか工風をしたいと思ひますし、肌の間が見ますのもね』と伊集院夫人『朝鮮の婦人は男子の方よりもよく働かれるやうに見受けますが』と高橋夫人

□彼の白い服裝が奇麗で上品でいゝと私は思ひます□

けれど、何んでも話を伺へば洗濯丈でも女の仕事が大變だし、不經濟ださうで次第に染めたものを使ふやうになるだらうと申して居られましたが』と絢子女史『朝鮮の御婦人は大さう活潑でございますね』と高橋夫人の言葉に『えゝ、全く内房にゐて外には餘り出ないといふのに公會の席なぞでも少しも臆する樣な風は見えず、交際が大變御上手なのには感心しました』と伊集院夫人『此方に來て居らるゝ内地人の御婦人方は朝鮮の婦人と出入りして交際なさいますかしら』と濱尾夫人の質問に記者は『殆んど有りますまい

□兒玉伯夫人の李王妃殿下に國語の敎授□

を遊すのと、一部の李王職に勤めて居らるゝ方の御夫人位で御座いませう』と答へると同夫人は『出來る丈婦人方が互に出入して交際を親密に遊ばすとは大切だと思ひますね』と言つて絢子女史を顧みる、眼を瞑つて考へて居た女史の眼がパッチリ開くと『それに言葉が何方にもわかるやうにせねばなりませんね』……『野菜でも何んでも背に負つて賣りに來るのと婦人が頭に物を載せて歩いて居るのとは珍しうございましたね』と伊集院夫人の言葉で話が旅行談に移る『えゝ、それに牛が野や山に放ち飼ひにしてあるのも

□珍しいと思ひました、なんだか□

昔に返つたやうで……』と絢子女史は『それからお墓が澤山ありますのね、山の上に、あれにも驚きました』と濱尾夫人『山が赭く禿げて木の少いのも眼につきますが、私共の素人眼にも木が多くなつたら氣候もよくなり、水害や旱魃も少くなり大さうよくなるだらうと思ひますね、二十五年もたてば木は十分に生長すると云ひますから、後十七八年もしたらすつかり朝鮮も變りませう温突の燃料なにかも木を使はせぬようにして山を大切にして居られるさうですが、何か人工で燃料をこしらへるとしたら手もはぶけ山も荒れず、便利だらうと思ひますね、山が多いのだから彼に一杯木が茂つたらどんなに立派になるか知れませんね』と絢子女子の眼は窓外に向く

▲御當地の若い奥樣方は何故斯う華美なんでせう?
年寄が居ないから氣儘をなさるのでせうよ

それから朝鮮の作物や共進會や内地人の生活振りの話が暫時賑に交はされて、朝鮮の惡い風俗習慣は内地人の指導で、殊に家庭の事は内地婦人の力で改良して簡便に、便利に、贅費を除くやうにせねばならぬと云ふ意見が種々の方面から語られる、朝鮮の冠婚葬祭に蘆を擧げ華美を盡す惡い風習の改りつゝある事から話が内地婦人に歸つて、朝鮮に居らるゝ

□内地の婦人は餘分華美のやうですねと絢子女史□

が皆の顔を覗ふ『同じ黒紋付の著物でも昨日のと今日のとは物が異つてゐますものね、内地では一人で黒紋付を二通りも三通りも持つてゐるやうな人は澤山ありませんよ』と—濱尾夫人も『えゝ、實際、思つたより華美なやうで御座いますね、思切つて飾り立た人を度々見受けますもの』『も少し質素に

□此方に來れば却つて衣類は少くてすむさうな樣に

なつたら便利で御座いませうにね』と伊集院夫人『矢張り若い方同志が多いからで御座いませうね』と高橋夫人『えゝ、老人が來ればよくなるかも知れませんね』と絢子女史の齢に似ぬ元氣らしい頰に微笑が浮く、話は盡きさうもないが汽車は何時の間にか南大門驛に

灰雲を掠めて飛ぶ
成功せる三重號の低空飛行

これまで閑院宮殿下の御通行に遠慮申し上げて度々飛行を差控へて居た尾崎行輝氏の三重號は五日午前十一時十七分より同五十七分まで約四十分間に亙る

■大飛行を試みた

然も六百五十米突の高度にて漢江を越え南山を廻り更に二百五十米突の低空飛行にて京城市街を三周した上物の見事に龍山練兵場の飛行場に還つて來た、此の日下層八米突の風速あり上層また灰色の雲脚早く觀客の憂慮又尠なからずであつたが鵬翼一搏京城の空を自由自在に翔け廻つた尾崎氏の手練は實に恍惚として滿都の人を醉はしめたのであつた、殊に此の日の龍山練兵場は閑院宮殿下を奉送した京城各學校の男女生徒を始め一般拜觀者の人々も電車の歸途を雪崩れこみ既に午前八時頃から場内東方の丘は黒山のやうな人群りである、而して格納庫から引き出した三重號の側には數多の職工人夫等が忙がしさうに飛行準備や牽引力の試驗を始め丸く肥つて澤柳氏やカアキ色の飛行服著けた尾崎氏も現れてゐる、小丘の上の群衆は

■尾崎氏の機上に

上る度毎に拍手喝采する、併し飛行は却々開始され相にも無いので中には待あぐむで徐々歸り仕度する者もある、其内又牽引力を試す爲に尾崎氏が機上に現れプロペラを鋭く廻轉すると其の風を捲き帽子を飛ばす轟々たる爆音に見物は又引還す、斯くて兩三回牽引力の試驗を試みたけれ共ガソリンの質が惡て何うしても牽引力が出ない、ダイナモメーターは二百度以内で停つて了ふ『何うも朝鮮に良い油がないのは殘念だなあ』と一同頗る殘念がつてゐる處へこんどは機首を廻轉させた上勾配の位置を替へて試驗したところ出た〳〵メーターの針は二百七十度を示したので愈よ飛ぶぞそこで三四時間に亙る試驗が濟むで愈よ尾崎氏が機上に上ると

■廣き練兵場内に

は破るゝが如き拍手喝采の聲が起り三重號の雄姿はプロペラの廻轉も勇ましく眞北に向つて滑走し更に機首を廻して南兵器廠に向ふと見る間に離陸し南漢江の方に向つて空へ〳〵と上昇する、觀衆はモウ大悦び大滿足である、須臾にして機影は南漢山の空を掠めて小く〳〵鶏のやうに飛翔して居たが人々の歡呼拍手しつゝある間に再び機首を廻らして練兵場の空に現れ此處にて美事なる旋回飛行を試みし上更に東方南山の外側高く蠶島の空とも覺しき邊を翔つて居たが機影は見る間に五色の雲に隱れて了ひ再び其の雄姿を現した時は既に京城市街東大門の上とも思はれる

■大空を飛翔する

時であつた、斯くて北漢山顚よりも遙かに高く望まれた機影は共進會場の上空あたりにて漸次下降し始め次で白岳の中腹とも見ゆる邊を二三度旋回飛翔して機影鮮やかに練兵場の空に現れ後機首南方に向ふと見る間に忽ちに北隅より格納庫前まで滑走した、此の時も觀衆は一齊に盛んなる歡呼をあびせかけたが尾崎氏は場に降り二三の觀客と握手しつゝ『今日は皆樣の御注文により一百五十米突の低空飛行を遣りましたが、高空よりも低空の方がお危險ですよといふ、すると總務部の亥角總務課長は『何うか素人の云ふとは用ゐずにおやりなさい、觀て居る此方がハラ〳〵します』と大笑ひであつた。

●天下一品の卓上演說(テーブルスピーチ)
故市原氏を憶ふ—植村俊平氏談

日本經濟界から市原君と云ふ一人才を喪つたと云ふことは洵に痛心の極である、市原君と自分とは舊の岩崎相識つたのであつて、其後故あつて日銀總裁の下に日本銀行に在任中に市原君と自分及び志立鐵次郎君等と連袂辭職してからも爾來二十有餘年其後間親交を續けて來たのである、市原君が

▲横濱の市長に就任してから も全國の模範市長と云はれる位に治績を擧げた樣であつた經濟界の重鎭澁澤男に讓らるゝ樣になつてから日本銀行、第一銀行等に歷任し遂に三十九年第一銀行の韓國總支配人となつて赴任してからは、金融の中樞機關たる重要の位置に立ち、韓國の幣制を整理し鮮少からぬ貢獻をしたものであつた、始政五年の今日に於て朝鮮經濟界の前途に想到すれば頗る遼遠であつて、而かも亦多事なる際同君の如き人物を亡くしたと云ふことは悲みても尚ほ餘あることである同君が單に經濟界に重きを爲して居たのみでなく、宗敎界に於ても多數の

▲內外宗敎家と交際し從つて人格的修養を積んだ人であつた、同君の特長と云つて第一に擧ぐ可きものは英語である、同君が東京、横濱地方に在任の折知名なる外人の講演會等は必ず同君の通譯に依らざれば聽衆が滿足しないと云ふ位のものであつた、大抵の人の外國語の素養と云ふものも年を取るに從つて發音等が怪しくなるのが通例であるが、市原君のは其反對で段々老熟して來た樣であつた、曾て京都同志社の敎授であつた同君の名は今も尚ほ敎授市原と云へば外人仲間に誰一人知らぬ者の無い位である、一面から云はゞ同君が今日あるは英語の力だと云つても差支はないのである、殊に同君の卓上演說と來ては將に天下一品であつた、今や其人逝て歸らず寔に哀悼の至りである

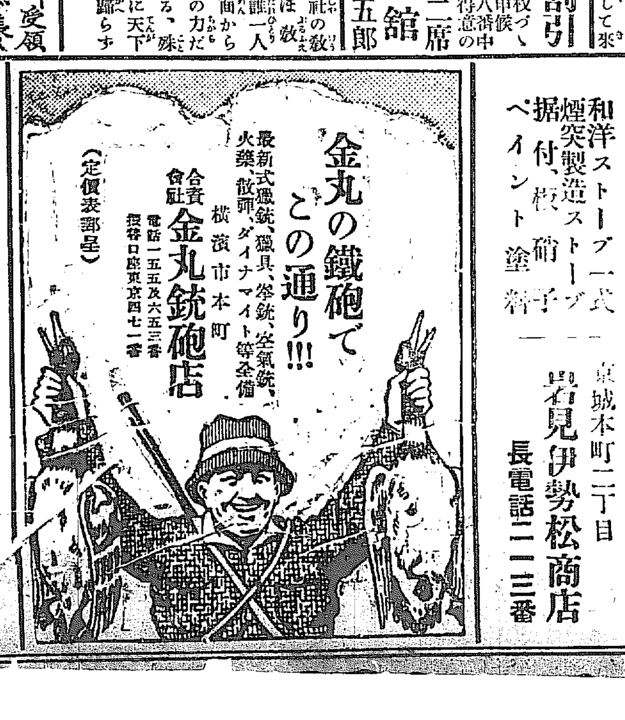
御禮と日のべ 六日 七日 兩日大割引
▲煙火の中に一等入場券數十枚づゝ
當る六日午後三時に六發を打揚げ可申候
當る演題は 殿中及傷田村邸切腹迄 不破數右衛門の赤心 長講二席
奈良丸 最得意の十八番中
本町二丁目 電話二六六番 有樂館
主催 都鳥 小島吉五郎

登錄商標 本椿香油 金牌受領
髪を黒く長くつやを出しさら〳〵として髪のぬけを防ぐ事妙

●國事忠死者法要　今回曹洞宗管長北野元峰師の渡鮮を機とし日韓國事忠死者法要のため曹洞宗京城別院にては六日午後二時、同八日午後二時、同八時大和町日韓禪寺十日十一日午後二時龍山瑞龍寺にて大般若經轉讀大施餓鬼會を行ふ

●妙心寺接心　長沙洞臨濟宗妙心寺別院にては五日より九日まで午後七時より十時まで夜坐接心を修行す

和洋ストーブ一式
煙突製造ストーブ
据付、板硝子
ペイント塗料
京城本町二丁目
岩見伊勢松商店
長電話二一三番



平壤市民の樂園瑞氣山を背景とし四季の眺望佳絶、閑靜にして設備完全
朝鮮總督府御指定旅館
平壤山手町
柳屋旅館
長電話二〇六番

商況
東京債券現物特電
天氣 曇り

東京株式特電

五日前場寄付 大引
日本郵船 九七、五〇 九七、四〇
日清汽船 一二二、一〇 一二二、一〇
鐘淵紡績 九五、一〇〇 九五、一〇〇
新鐘上場

止安高寄
め値値付

東京期米特電

五日前場 十二月限 寄付 一二、五六 一二、六三 一二、四二 一二、四二

深川在米特電

日鮮天期 朝鮮銀行 朝鮮瓦斯 南滿鐵道 一三九、二〇 一二五〇、五〇
五日現在高 朝鮮米 四九、一九五

大阪三品特電

五日出來値段(前日との比較) 五分特別 九六、〇〇 五分小額 八〇、二〇 一回四分 七九、一〇 二回四分 一〇〇、〇〇 五回分

大阪株式特電

種類 期限 始値 引値 寄付 終値
[illegible]
宇治川水 東洋製糖 同上新株 大阪商船 日本郵船 大阪米穀 東京新株 大阪株式

下關期米特電

五日前場 當限寄付 中限寄付 先限寄付 一一、八九 一一、二二 一一、三四 止め

朝鮮株式特電

馬山改支 釜山改支 木浦改支 群山特改 同並改支
九八〇 九四〇 八三〇 九〇〇 九二〇
釜山大豆 慶山大豆 浦項改豆 元山別大 羣山大豆 河東大豆 井津交大 龍山同豆

●奉天情信

張前按使辭職か=干氏登用說=馬賊省城に入る=張上將軍愈々挂冠か

▲奉天市況好調 九月中旬にかける市況は內地に輸入諸商品の拂底を告ぐる一方當地の在荷も品數なきため騰貴し前途益々上押さんとする形勢ありて活況に向ひつゝあれど例年に比すれば沈靜にして尙ほ餘程の遲色あるを免れず就中綿糸布の如きは賣值買值に甚しき値開きを生じ取引の圓滑を缺けるが麥粉砂糖等は仲秋節の餘慶を受けて相當の荷動きを見紙類は季節外れの事とて商況振はざるも歸す時は間旬より引續き內地原料品の爲め著しく騰貴を來しメリヤス製品其他の諸雜貨亦活況に向へり又支那側商人も此仲秋節決算に於て多少の波瀾あらんとするも總じて無難に決算期を切り拔け得るもの如く何れも廿日頃より高粱大豆等の特產物も出廻り始めたれば漸次田舍客の來城も頻繁となるにより商勢は次第に好調を呈すべしと

▲張前按辭職か 內務次長に轉任を命ぜられたる前奉天巡按使は今尙天津に淹留入京せざるが最近の消息によれば同氏は新官に不滿にて辭職せん事を請ひ適任者として前奉天政務廳長たりし史紀常氏を推薦せりとの說あり

▲軍務廳長人選 東三省特別官制發表期近くに伴ひて次第に總督府の廳局所長人選成りつゝあるが軍務廳長には段上將軍に先發して湖北より來奉せし齊嘉僚陸軍少將周樹亭氏就任すべし

▲干氏登用說 二十七師顧問干沖漢氏は前奉天交涉使として日文日語に堪能なるを以て張師長の推薦により近く發表せらるべき交涉局外交顧問に登用さるべしと

▲馬賊省城に入る 廿七師百六團の爲めに伐討せられて四散せし本溪湖馬賊の一頭目周錫林別名大坎肩は過般來奉潜伏中の處を一日二十七師の密偵に發見され夜十時頃小西門裡大街通行中を捕縛され司令部に押送糺命の結果之も本溪湖馬賊の首領たる皇世拉以下數十名が省城に潜伏し居れる旨白狀したるにより張師長は部下各旅、團、營、稽查、密偵に通達し其の嚴探を命ずると同時に夜間城內通行の門札を嚴査せしめつゝあり

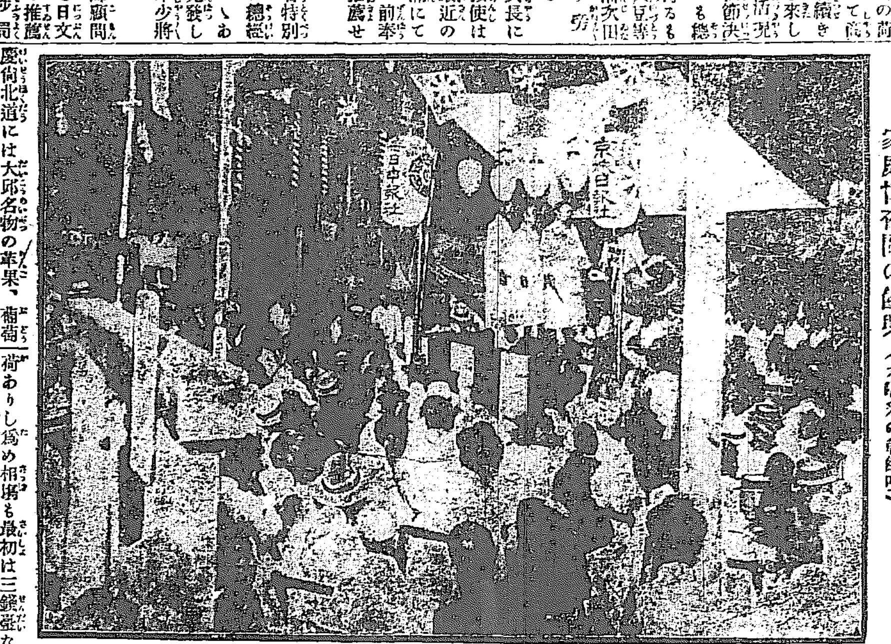
▲張氏赴湖中止 張彰武上將軍が湖北赴任の爲め奉天にて募集せし護衛兵一營は營長杜春元氏統率して出發の命令を俟ちつゝありしに一日突然北京よりの電報にて段鎭按上將軍の護衛隊に移屬せしめられたり或は張將軍が湖北赴任を厭ひて他に轉任するか又は全然挂冠するに內決せし爲めにはあらざるかと

●獻上金塊納付

今秋の御大典に際し獻上すべき慶北尙州の金塊は過般來尙州鑛務所長湊技師により製錬しつゝありしが廿九日一切の處理を終え該技師は卅日該金塊を携帶總督府に出頭せしが總督府にてはたゞ之に加工して獻上する方針なりと

●宮殿下獻上品

五日閑院宮殿下大邱驛御通過に際し慶尙北道には大邱名物の苹果、葡萄及び大邱製莚會社製造にかゝる莞草蓆を獻上せり



家庭博夜間の餘興(大邱米の朝鮮唄)

●鯖大漁期來る

方魚津近海に於ては去る一日以來秋鯖の大漁期に入り一日約五十萬尾の漁獲あり其の內五分の四は漁撈より生魚の儘にて內地へ輸送せられ殘五分の一は釜山水產市場に於て取引行はれ四日の如きは一日に九萬尾の入荷ありし爲め相場も最初は三錢臺なりし處順次毎日下落し四日に至り一尾二錢位にて賣買せらるゝに至り漁獲物は生きの好きは內地人向きとして鹽をし然らざるものは鮮人向として鹽魚加工を爲し各地方面の市場へ向け盛んに輸送せられつゝあり

●數百年前の碑石

と思はるゝ物を發掘す

稀代の古碑一基を平壤南門通農銀前の下水工事暗渠埋築作業の際偶然發掘せり既に其臺石丈は地上に搬出したるも碑文を彫刻せりと思はる部分は未だ取り出すに至らず今一週間後には全部道路上に持揚ぐを得べしとのことなるが其大さは碑幹高さ約七尺餘巾四尺五六寸厚さ約一尺に及び全體花崗石にして年代は專門家の鑑定を經ざれば判明せざれど五百年前位の建設に係るものらしく兵燹の際土中深く埋沒し敵軍の蹂躙を避けん爲めの所爲に出でしものなるべしと某氏は語れるが尙ほ此の外にも南門通より鮮門に通ずる分岐點附近に同一の碑石を埋沒したる形跡を近來或記錄に見ゆる樣取沙汰せられつゝあれば意外の珍品を發見するやも知れずと

●平南の表彰者

日本赤十字社平壤支部は明治四十三年十月に設立せられたるものにして其間社務に盡力せし松永支部長篠田副長本田副長中野委員長中島支部事務員の諸氏は今回特別社員に推薦せられ本田、水口、中島の諸氏は辱けなくも總裁宮殿下より特別社員章の親授あり愛國婦人會支部にては支部長松永滞子、副長篠田松枝同辻満子、同大橋常代、同水口國子、同八木幹子協贊員水谷シメ子の人々は五箇年以上會務に盡瘁せし廉にて有功章を贈與され其の中大橋辻の兩氏へは是亦殿下より御親授の榮を辱ふせるが前記以外の人々にして五箇年以上功勞ある人々へは追つて表彰さるべしと

●慶北陸地棉指定價

慶北慶南兩道陸地綿販賣指定價格は二日慶北道廳より發表ありたるがシドリング大阪相場は三十九圓六十錢にして釜山工場相場は左の如し

一等實棉	十二圓十五錢五厘
二等同	十圓九十三錢九厘
三等同	八圓五十錢八厘
四等同	六圓七錢七厘
一等繰棉	三十三圓九十二錢五厘
二等同	三十圓五十一錢二厘
三等同	二十三圓七十四錢七厘

●名古屋視察團來期

既報共進會名古屋視察團來鮮期日及び團員數決定せしが去る三日該視察團を來る十二日午後一時十八分大邱著同日午後五時四十分出發京城に向ふ旨通知ありたり因みに團員五十名なり

●新大豆出廻り

平南新大豆の走りは九月廿日前後見本として南浦市場に現はれしが當時はホンの見本の事とて相場も出來ざりしが漸く出廻り期に入りたれば三日より載寧產弗々廻著し取分け四日は少し纒りたるもの市場に現はれたるも正午迄には商內出來ざりし尙ほ本年の大豆は先づ平作と云ふべく品質も亦良好なり

●咸南獸疫發生

咸鏡南道洪原郡鶴泉面東上里金斗弼所有の畜牛壯八歲は洪原邑內に至り採食中突然顚倒斃死す此の報に接したる同地警察官は畜產組合中村獸醫と共に現場に至り屍體を檢するに獸疫の疑ひあるを以て解剖を行ひ病狀を檢したるに其の病名炭疽病と確定す又た同郡州驛面城內里に於ても一頭突然斃死せるものありしを以て同樣解剖を行ひたるに其の結果之れ亦炭疽病と確定す之れ等の病原に付ては同獸醫目下調査中なりと而して多くの畜產家は將來の發生を慮り注意しつゝあり

●連絡船上陸客

四日午前入港新羅丸一二等客
(一等十名)王滔年、竹原友三郎、中村輪、外人七名(二等三十九名)高井直義、大塚正保、岡里子同健三、同きく子、澁谷忠雄、同貞代、同明、谷口五兵衛、篠田長次郎、岩尾敬一、長峰さく、木村良吉、横山源助、野邊地律美、三角花子、義夫、內田リン、伊藤敏郎、長井政次、同三千治、日高賢三郎、野村貫一、光永吉二、古城國勝、鶴田昇平、望月公平、江藤聯次、市原直彥、久保田吉律、藤田寬二郎、八木改二郎、和泉金兵衞、山田吉太郎、大石榮三郎、坂本里信(三等百九十一名)

四日午後入港對馬丸一二等客
(一等十二名)中村萬造、內野五三、石橋友吉、栗田友藏、佐藤秀光、井原斗作、三島太郎、鳳間八左衛門、川住正雄、鶴岡八四名(二等十四名)井倉喜知、八代重行、池田記雄、高橋嘉治、中島健介、同東女、後藤孫次郎、尾形增吉、森本泉安盛兵衛、桃山將英、龜谷伴吉、三宅想天、京賀顯吉(三等一〇六名)

演藝案內

壽町 壽館 電一〇五〇
東京落語歌舞音曲々藝桂三木助一行◎十月五日より晴雨に不拘毎日午後六時開演二遊亭右朝、吉柴亭太郎、桂三木助、桂三太、林權助、桂三升次、桂三之助、三遊亭小圓六切りは樂屋總出の大喜利を御高覽に供し候共進會を祝する爲め入場料一等三十錢、二等二十錢、三等十錢

黃金町 世界館 電話一四三四
九月二十五日より▲松旭齋天洋一行出演▲世界的大魔術▲共進會特別興行▼毎日午後七時開場 土曜、日曜、は正午開演

御成町 御成座 電話一一九一
二十四回替藝題(一)善惡二人辯護士 全八場(二)喜劇「戀の競爭」全二場
▲登場人名 伊津美次郎、石黒史郎、佳木時夫、川上一明、芳川秀大、吉川操、藤井隆之介、富士田岳、常盤屋之助、酒田君夫、池家一、濱川二郎、日川一志、日野篤兵衛、小役水野朝子

黃金町四丁目 黃金館 電話二六三七
天然色活動寫眞株式會社滿鮮一手代理店

龍山停車場前 龍光館 電話(龍山)四番
當十月三日より寫眞全部差換◎田舍の夫婦◎大曲藝◎正劇殿しき義務カーテン騷ぎ◎社會劇「運命」一婦人戲虛心にかられて都に出で多くの男を詐きて榮華の生活をなしたるも最後に至り惡漢に詐かれて財產を失へ初めて虛榮の夢醒め社會を恨みて病死すると云ふ劇なり◎舊劇「梁川庄八」全四卷百三十場梲の仇仙臺家の重役を切り伊達正宗の恨を受けて靑葉山の水牢に入れられしも白狐の神通力に依而助けられ仙臺を浪人なし八十余州を經巡り奧州仙臺脫藩破牢梁川庄八と名乘り名札を出して弱者を助けきをこらして居たりしも遂に正宗の命に依り仙臺家へ歸り大勢の若侍を相手に切りむすび我と我が腹を切りて大くの侍に惜しまれさせ靑山朝露と消へて美名を天下に殘す花々しくもある義俠傳見落す勿れ入來らずや最長尺に付正七時開演仕り候◎音樂隊の思聘に應じ申込は電話四七七早川事務部へ◎大德川御數御覽劵發出仕候

龍山 佐久良座
⊙十月六日(十九回目)『假名手本忠臣藏』大序より大詰通し
入場料 二十五錢均一

櫻井町 大正館 電話八七三番
來る九月三十日より寫眞全部差換▲寫眞土國モルモリ海▲喜劇ッヰフレスの幸二卷續き▲滑稽陽ゐさ消ゆる▲日活會社獨東描寫品近來の傑作▲新派大悲劇『俠妓花吉』全三卷◎現代の花柳界に如斯俠骨ある俠妓花吉の如き者ありや是れ眞に疑問?▲佛蘭エクレーア社大作▲泰西探偵大活劇『怪しき銀行』全二卷▲日活會社關西撮影所苦心の作◎舊劇『女太閤』全三卷六十八場▲豐臣の遺孤の天下を呪ふて箱根山の仙女より妖術を授ける「果然現れ來る三勇士は何者ぞ、孤忠の姫を扶けて如何の活動をなすや長へに太平の千代田城內何時ならぬ黑雲漲り渡り傑天動地の大騷紀を顯出すると云ふ松之助得意の大活劇

明治町 浪花館 電話一二六〇番
◎いよ〳〵四日より特別大興行▲東京落語大一座桂小南一行來る今回共進會開館を好機とし東京落語界屈一の人氣者桂小南一行を呼び下し御觀覽に供する事と相成一座當時の賣れ子を選拔し大切りにわ小南獨特の電氣光線應用空中自在の所作事等を御高覽に入れ候開演時間は每夜午後六時開演是非御一覽願度候

本町 有樂館 電話二六六
新築落成一有樂館▲當る十月一日より開演今般浪曲界の好評嘖々として浪界の雄斗吉田奈良丸一行を招聘し開演仕候間何卒陸續御來觀の程奉願上候
◎五日目の演題(吉田花若)▲太閤記續(廣澤正圓)▲須磨の浦風續(吉田大將)▲吉田久衞(廣澤正圓)▲天一坊續(吉田常春)▲赤垣源藏德利の別れ(長講二席)(吉田奈良丸)
◎毎日午後正五時より開演仕候▲京城本町一丁目新町通り電話五七〇番へ御申込下され候◎一等一圓二十錢、二等八十錢、三等四十錢、小供四十錢均一◎吉田奈良丸當京城に於ては他に出演せざる事に相成居り候尙御贔屓賜り度く御畢来上候

初秋新涼の好讀物

德富蘆花著
自然と人生
身を自然大化の奇懷に投じて、非身の汚濁を一新せんと欲する者は、試みに本書を一讀せよ。自然を美化し、人生に快樂を與ふる著者の如きは非ざる也。…自然に關する五分時、寫生帖、湘南雜筆、風景畫家コロオ、五百首餘の…
定價二十五錢

德富蘆花著
靑山白雲
自然の美を讃へ、人情の奇を寫ふ絶妙なる美文詩也。…靑山流れ、夏の夜話、數應洪荒の…土產、水國の秋、訪はれ來、夏の山…等あり。何れも皆心醉く。讀み行くうちに心中の人となり、筆端として己を忘るゝの感あり、…
定價二十五錢

德富蘆花著
不如歸
日本唯一の家庭小說にして、既に百三十九版を重ねたるにて其の民俗を知るべし。家の原稿「逗子の消息」「山科のステーション」等々再び讀むも泣かずには居られず、百版の發賣に曰く「本書は淚さんが自ら讀者諸君に語るのである」と。
定價四十五錢

德富蘆花著
靑蘆集
先生の文を讀む者、必ず一種の靈氣が感ず。是れ其の想の高潔にして其の調の雄强なるに依る。本書は努力最も長びたる先生の小品文を集めたるものにして、五分時の夢、除夜の物語、烏尾の初時の記、零時、想思心臆、伊助十歳、鬼信 名勝、甲州紀行、犬個の日の水面、雨毛の秋、吾が初聲の自然等あり。
定價二十五錢

鳥塲恒吉譯著
獨探日記
最近歐米の讀書界を震し、天下の大好評を博したる大奇書にして、國務に參與したる名家の一子が波瀾曲折を經て偵探となり、カイザーの爲め、獨逸政府の爲め、世界の攻略要路を縫ふて大膽悉く暴露せる小說以上の好讀物也。
定價五十錢

早川貞水講演
赤穗義士
最も活躍すべき資料を基とし、良水獨得の快辯を以て、日本武士道の精神たる四十七士の面目を躍如たらしむるもの、平易通俗にして而も芳烈悲壯なる言句、人を魅して感激に入らしむ。九寸の爽快なる好讀物たるに適す。
定價四十五錢(全六冊)

伯知・如燕講演
御前講談
近世讀談社會の雄斗たる故松林伯圓、桃川如燕の二氏が、曾て畏くも、先帝陛下の御前にて口演したる楠正成、楠正行、鳥居強右衛門、山內一豐の內室、太閤中國の陣、伏見地震加藤淸正、木村長門守、中山大納言の八種を收む。
定價七十五錢

山路愛山著
乃木大將
愛國誠忠の辨人乃木大將を愛山先生獨得の筆法にて記傳したるもの、大將其の人の全生涯を描寫し、大將の本領と眞面目とを餘蘊なく研究したる者。故に大將の靈馬物語と、遊愚の道愚とは自ら新上に躍起たり、一讀必ず快ぶに堪へざらしむ。
定價八十五錢

村上浪六著
八軒長屋
是れ一種の人間學也。戀愛小說にあらず、偵探小說にあらず、實に浪六氏一流の人間學的小說也。千卷の哲學書も之には及ばず、萬卷の倫理道德書も遙に遜る所ある人間社會を諷破せる者也。滑稽諧謔の裡に一道の眞理在り。
定價二圓五錢(全三冊)

大賣捌所 ▲郵送料本社負擔▲
京城太平通一丁目 京成日報社代理部 振替京城三〇〇番 電話一六六〇番

大擴張
共進會觀覽者には特に御便宜叮寧に取扱申候
京城南大門驛前 武藏旅館 電話二三六四番

大日本優良清酒等
ハクツル
品質純良 衛生無害
白鶴
攝津灘御影町 釀造元 嘉納合名會社
京城本町四丁目十四番戶 發賣元 前田酒店 電話一二三七番 振替口座四二五番

開店御披露
今回廓內崎陽樓跡を改築開業仕候に付ては聊か自祝として本日より向ふ七日間臺附を以て勉强致候間御引立の程願上候
十月二日
仁川敷島廓內 第二敷島樓支店 電話九一六番

くすりは山岸
諸官衙御用達 洋藥 賣藥 卸問屋 醫療及試驗器械
懇切叮嚀、迅速確實、に市內配達及び地方通信販賣致居候
京城本町二丁目郵便局前 山岸天佑堂 藥品部 器械部 電話一二二〇・七四二 振替貯金口座京城一二三

內科 小兒科 入院隨意
京城明治町(元善隣學校跡) 中島醫院 電話三七八番 院長 中島貞信

銚子港 田中玄蕃釀造
ヒゲタ醬油
代理店 櫻正宗發賣元 京城明治町一丁目 山邑京城支店 電話八四九番 振替貯金京城七五番

化病院 京城本町二丁目 電話二四番
入院隨意 普通病室並隔離病室
院長 醫學博士 古城憲治
尿。便。血液。喀痰等臨床的檢査の依賴に應ず(每日五名を限り無料施療す)

予報
(京城溫度)四日午後二時 最高溫度 攝氏二十四度六分
最低溫度 攝氏七十五度九分
(印所)四日午後二時 攝氏二十四度二分

日 六日 (つちのえ)九十五年
節 二月 四日 五月 三日
入 二百十日 九月 二日
潮 入梅 六月 十一日
漲 半夏生 七月 二日
彼岸 三月 十八日 九月 二十一日
社日 三月 十九日 九月 二十四日

越後大評定

第四席　早川貞水口演

お化御殿

そこで本多作左衛門お萬を引取り、自分の家へ置き、行儀作法を躾け仕込みまして、築山御殿へ御奉公に上げる、所が築山御殿と云ふは、世にお化御殿と稱せられた所で、奥様の御縹緻の悪いこと、それは話にならぬ、物に例へて見ると、鐵鍋に厚い紙を張り、漆を塗り、日に乾かし、それへ髪を冠せたやうな有様、どうもそれは搗立ての大福餅を放り上げ栗の毬で受けたのを、砂利場へ叩き付けて踏潰し、電車に引かしたのを犬が銜へて鬼摺つて、公園地の砂利場へ放り出したやうな穢汚い面だ、髪の毛は彼方へ五本、此方へ十本と漸う纏めて、亂髪や鬘を油の御蔭で結ひ上げて居らつしやる、少し風の強い時は髷が吹飛ばされさうだから女中が後から押へて居る、それで身の丈が六尺もあつて、嫉妬深いからいやはや二目と見られた奥方でないけれども時勢に依つて、此御方を貰はなければ、御生命に拘はる、家の大事と殘念ながら、之を迎へられたのである、御夫婦の間の好い道理がない、然れども不思議なもので、御一子を生け、之を岡崎次郎三郎信康と申し上げた、それつきり御子さんは出來ない、其様な事情だから、此奥方の側へ仕へて居る女中の縹緻が、又よいのが、一人もない、それはそれはもう目ツ眇、跛足、痘痕ツ面、悲のある者、瘤のある者が揃て居る。

御化御殿と稱するのも無理はない其處へ本多作左衛門が、娘萬を御行儀見習に御奉公に上げたいと云ふ、是は作左衛門自分の子ではないが、我子として御願ひして御奉公に上げた、すると此人が頗る美人、それがため築山御前お勢那の方、この萬の姿を御覧あそばし『ほんにマア醜い女』と仰られた、醜い所でない、取別けて美しいので御坐いますが、餘りに醜い中へ、美いのが一人上つたから斯りやア無理がない、醜いかも知れない、老女はじめ皆の者が『マア本統に鑿な不具者が參りました』と、

サアお萬に碌々口を利かぬと云ふ譯そこでお勢那様御内命に依り御風呂番に下げて了つた、サア家康公度々それとなく奥へ入來つしやるが、平日の女中ばかりで御坐いますから、作左衛門を召されて　家『作左』作『ハツ』家『まだ其萬は取計らひは着かぬか』作『疾に御殿へ差上げましたこと先頃も申し上げたでは御坐いませぬか』家『左様か、どうも予の目には止まらぬ』作『イヤ其やうな譯はござらぬが』と云つて、頻に作左衛門から申す、其後御入來あそばしたのが五月末つ方、今日は暑さも厳しく、風呂へ入ると仰せられる、そこで築山御殿の御風呂へ御入り遊ばす、其時に御風呂番をして、御背を御流し致しましたのを家康公御覧になると先頃作左衛門に御内命になつた萬であつた、さては斯様な所に在りしかと

思召し夫から折を見り此築山御殿へ入來しやる築山御前はさう云ふことは御氣が附かぬから『近頃御上が御足近く入らせらるゝ』と云ふので大層に御化御殿が景氣付まして御機嫌が宜い、下の御女中に至るまでも喜び勇んで居る家康公その都度御風呂へお入りになる、其後入らせられた時にお萬が、人目のなき所を忍び出で、源君の御袂に縋り『萬は恐れながら羞かしくも御主君の胤を宿しましてござる』家『左様か、イヤ其事が奥に分ると其方身の秘密にならう、よつて取計ふに依り、身を大切に、穩を冷すな』と仰せられ、有り合ふ御肌衣を下し置かれた、頂戴して、始終萬は之を躬に着け、大切にそれとなく御奉公して居る。

十月七日九星
舊八月廿九日辛未
木命八白艮開赤口

△八白　意固の定まらぬ日新事見合東方は吉晴朗良△九紫　盛大の日轉居入學訪問名弘家作求職婚禮用漁特許出願等萬吉△一白　不滿の事有日新事手控萬事は吉買物に用心せらるべし△二黒　不滿足に非る事有日新事手控萬事土工は妨なし△三碧　睨みくらするよふな事有日新事手控萬事開墾は妨なし△四緑　色情の障り失物用心の日新事手控萬事は吉△五黄　働き損さなる事有日新事手控萬事は吉一切のせわせぬがよし△六白　毀なる日轉居旅行商入學求職金件嫁娶取音樂等を營む等萬吉△七赤　開店の日轉居旅行用漁求職開店掛名弘婚禮婆子女を定る等皆吉

安心せよ

にきび

あざ●そばかす　ほくろ●吹出物

△不思議の療法　發見

前東京皮膚科醫院副院長ドクトル西川先生が苦心發見の顔面皮膚病發賞療法は●にきび●あざ●そばかす●ほくろ●斑點の跡迄も責任を以て美白に自宅で治療せしむる最も進歩せる奇効世間に類なし

ドクトル　西川先生

實驗者より眞心からの喜びの證状を寄せらる◎二錢切手添へ新聞名記入申込めば専門大家の證明附說明書無代進呈す他の無責任賣藥に迷はず速に試みられよ

東京小石川仲町三　東京美容専門藥院

▼月やく

月やくとまり他の藥を用ひ効なく御心配の方東京で一番信用ある私方へ三錢切手添申込あれ害なく不思議に下る妙藥を知らせす

東京市四谷信濃町停留場前　森田屋

肺病

私儀多年肺病に九死の際一個の奇藥發明全治せる爲め世故同病者を救ひつゝあり御照會あれ直ちに詳細を告ぐ郵券二錢封入

東京府下大森不入斗　川名助次部

こしけ　と

身も魂も喰ひ殺す

不妊娠は女に取つて怨靈の祟り

中秋の空清く澄み渡つて、秋の七草咲き揃ふ本來ならば男も女も健康で肥滿る時であるに係らず毒の度中に上る女のこしけと言ふ病はこの一年の中で最も時候のよい追々寒くなりかゝる頃から段々頭を持ち上げて來て、婦人の五臓六腑を喰ひ荒し血も肉もなくなつて足腰も立たなくなり半死半生に至るまで責め倒すといふ質の悪い道な病氣でござります一體こしけと申しますのは位置に依つて下り物のやうなものが出るので中には段々とうたに從つて黄色の混つたもの汁のやうに流れ、腐つた肉塊のやうなものもあつて色も最も悪いのなどは月經後などに中に色のあるもので其療法を誤つて居るやうな方は大抵が出來た殘つて居るやうに打やつて置かれるが、手當もせずに打つて置いて後には最後重くなるとこしけの毒が全身に廻つて身體は次第に衰弱し手足の關節が痛み全でリウマチで頬つたやうに終には手足が曲り二目とは見られぬ形になるものです

又こしけは男子を殺す恐しい毒があります夫でも一生樂しい夢の間から假令へ身體が丈夫でも一生樂しい夢は見られません

こしけの恐しい病氣であると言ふ證據は局部とは全で見當違ひな頭の先が病めて毛がぬけ又誰方でもこしけの時は必ず頭痛、眩暈がし、腰足が冷え下腹が張り、逆上、息切れ動悸が高ぶり不眠症、月經不順、神經衰弱等になり易いものであるのを見ても判りますから、若し皆様の中にこしけの爲め右のやうな容態の方がありましたらアレやこれやと詰らぬ山師のぺてんに罹つて大切のお錢や命を捨てるより二錢切手十枚又は三錢切手七枚添へお申込になれば、こしけ、足腰の冷え不姙症、頭痛、眩暈、逆上、月經不順、お産前お産後の病ヒステリー等に服めばスグきく治つた方が何より證據の天下一品こしけ婦人病の元祖藥見本一日分と百二十餘頁寫眞三十餘入秘密治療書を差上ます

◎注意　夫婦の秘見藥とか○學者の著はした本など、牡丹餅で頬たくなやうな觸れ込みで吹いても見本藥の一つも送れぬやうな藥の生へたのは問題外です何より安全な服みになる早く治る見本藥を是非お試しになるは世の中で一番幸福なお方です

東京市麥若山際田村町三　（電芝四四）　篠原とめ子

妾はナゼ「美顔白粉」を高貴方へお勧めしましたか

今東京で美顔術の大家として雷名を轟かしてゐる日比谷巴里院長マリールウヰズ孃は未だ佛蘭西公使館に居つた時分、其公使館附武官ルウヰズ大佐の愛孃で、生粋の日本東京育ち。長じて本國佛蘭西へ行かれ、化粧の都の巴里に於て、好める道の美顔術を、世界に一つしか無い美顔術學校で修められ卒業後日本へ歸られてから、益々其術ごと學を研讃されたので、今では東京の各宮邸を始め高貴の方々の美顔術ごお化粧ごは、何れも此天才的女流美顔術家の手を煩はされる程非常な御信任を博し、貴婦人方敬愛の中心となつて居られます。

各宮家御用　女流美顔術大家　マリールウヰズ孃談

學者の創製したる美顔白粉といふ新聞廣告の始めて妾の眼に止つたのは本年の三月頃でした。從來妾は高貴の方々へは佛國製の白粉をお勧めしてゐましたが、歐洲戰亂の舶來品が思ふ様に參りません。殊には畏き邊より内國産御獎勵の御言葉も御在ましたので、その美顔白粉といふのを取寄せて調べて見ますと實に完全な白粉で、全く申分がありませんでした。有數な學者の創製した丈けあると感心して終ひましたので、それからは各宮家を始め華族方へは凡て美顔白粉をお勧め致しましたのです。怎麼良い白粉を廣く世の婦人方へもお勧め致すのは美顔術家の務でもあり、皆様も定めてお喜び下さる事と存じましたので、

妾の調べた美顔白粉の良い點を御參考までに掲げる事と致しました。

（一）色が特別白い事です。どんな白粉と比べて見ても美顔白粉ほど色の白い白粉はありません。

（二）美しい光澤がある事　美顔白粉には、他の白粉に見られない美しい光澤があります。

（三）ノリとノビに申分がなく

（四）容易にハゲないので　襟を汚したり、白粉クヅレしたりする心配もなくお化粧が永く保ちます。

（五）皮膚の荒れない事　これは中々困難な事で、大概の白粉は多少とも皮膚を荒す虞のあるものですが美顔白粉には全く其心配がありません。此邊は餘程學者の苦心せられた事と思ひます。

（六）純無鉛の事　分析して見ましたが鉛分は微塵もありません。無鉛白粉と言つても少しは鉛の含まれてゐる白粉も隨分あるやうですが、美顔白粉には其れが絶對にありません。

月桂樹

仁川期米

△五日前場　大阪前市十二回三十四

△五日前場　中限▲八圓十九錢先限▲八圓七十八錢

△新動機發か

△新甫氣乘薄

仁川現物市場

前場　寄　止　引　附

十月限　十一月限　十二月限　出來値比較

生魚市場

京城日報
年中無休刊
(第二千九百三號)

京城日報　歐洲戰局

今夏以來、獨軍露國內に進入したりといふの外に特筆すべき事なく、他の戰線は殆ど交綏狀態を呈し居たるに、最近に至りて佛白戰線に於ける聯合軍若りに躍進を試み、其功蹟著しきものあり、之に反して露國內の獨軍は漸次減少し、其進攻亦中止の姿あり。

蓋し佛白戰線に於ける聯合軍は、初めより敵に對し優勢なるに拘はらず、久しく相對時して動かず、殆ど交綏狀態に陷りたるは、世人の甚だ解し難しと爲す所なり、特に獨軍其精鋭を拔いて露國內に進入するに及びて、佛白戰線に於ける獨軍從々寡少なり。此度の聯合軍の躍進は此機會に乘じて衆を以て寡を攻むるものたらざるべからず、只獨軍其精鋭を拔いて北進するの日を以て、其虛を衝くを爲さずして曠日彌久今日に及びて初めて動くが如きは、或は緩慢に失するなきか、若し早に及びて之に乘じたらば、獨軍の虛を衝きて之を破ると同時に、露國內に進入する獨軍を牽制して顧眄に遑なからしめ、英佛軍と露軍と相應じて獨墺軍を攻擊し得たらむに、其時機を逸したるは甚だ遺憾なり。

而して獨逸は其力を盡し波蘭諸地の露軍を戰ひ、遂に其國內に進入するを得たれども、獨軍の恃むところは自國內の鐵道交通の至便なるにあり、從て自國を離れて遠く敵國に入るに及んでは、復た其恃む所以のものを失はざるべからずして、露國內に入るを深きに從て益々其行動策の自由を得ざるに苦むの情あり、且其の軍需品の供給其他の爲めに人員を要するを夥多しくして、到底獨逸の力を以て之を支持すべきにあらず、是れ其の漸次撤退を圖るに至れる次第にして、獨逸の當初の意思はリガを略取し海上交通を己の手に收めむとするにありたらむ、然るに今や大なる損害を被らずして退くを以て是れ幸とするの情あり、吾人嘗て曰く此度の戰役は、軍需品供給力及び交通運搬能力を以て勝敗を決すべきを詳說したることあり、吾人は今以て此信念を動かさゞるなり、佛白戰爭に於ける聯合軍が、速かに躍進せずして日を曠くしたるもこれが爲めなり、獨逸軍露國に入りて其志を得ずして退かざるべからざるも亦これが爲めなり。

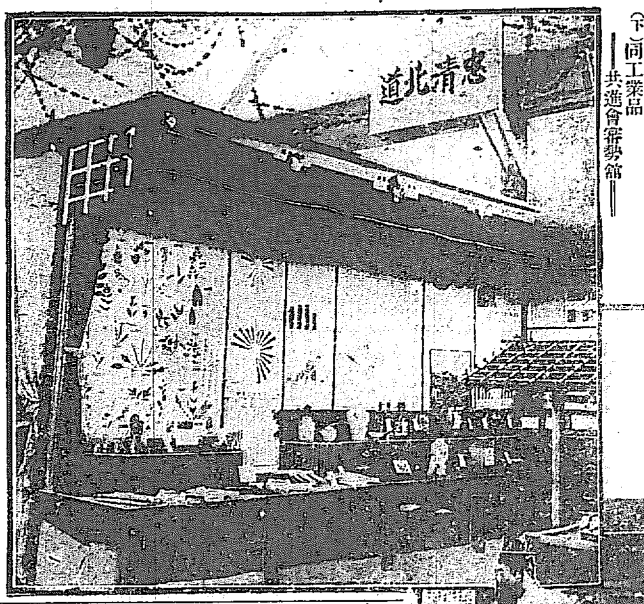
此度の戰役にて最も興味ある戰鬪は、英佛聯合軍の土耳其海峽攻擊なり、海峽にして陷らば土耳其は猶ほ俎上の魚のごとくならむのみ、聯合國民は此獲物を得るに依りて戰爭終結の境と爲すべし、且今度の戰爭にて露國と英佛諸國との間、海上の交通は自由ならず、陸上は戰線を隔て相隔離するを以て、露國は武器軍需品の供給に苦むと同時に、露國の餘りあるところの穀物を出して聯合國民に補給する能はず、然るに若しダーダネルス海峽にして聯合國民の手に歸せむか、露國の穀物農產物は黑海より自由に輸出せらるべく、露國亦武器軍需品を此通路より輸入するを得て、其相互の便益測るべからざるものあり、近時聯合軍が海峽の攻擊を開始して、速かに之を陷ることを期するを傳ふ、他の一方には獨逸が其不足勝ちなる兵員を割いて土耳古を援助するを傳ふるは、決して其故なしとせず。

大共進會　出品概觀(十一)

▲審勢館(忠北)

京畿道と相對せる一區劃は忠淸北道の出陳なり、中央の壁上には起ちて大小二個の寳珠の大さに依り五年前の形ありて其寳珠を持てる等身大の人と今日とに於る同道內生產額の比較を示す、寳珠に記入せる數字に依れば五年前に於ける生產額は五百三十萬圓に過ぎざりしも今日に在りては千四百七十萬圓に躍進せり、周圍の壁面には一體に圖表を揭ぐ此圖表は二十枚より成り土木、財政、敎育、戶口及び各種產業等に關する既往五箇年間の消長增減の比較を示せり、其中主なるものを擧ぐれば米の產額は二十四萬石より五十五萬石に達し、繭の產額は七石より千八百石に上り、棉花は二千斤より一萬二千斤となりたる而已ならず甘藷の如き從來殆ど栽培を見ざりしものに在りても今や十萬圓の產出を見るに至れり、殊に同道著名の黃色煙草に至りては大正元年初めて改良種の栽培を獎勵せしものなるに其產額既に四萬貫に上り在來種を合せる總產額は三十四萬六千貫に達し繩莚の製產亦た逐年激增して今や十四萬三千圓に達するの盛況を呈せり、戶棚の平面部には恩賜授產傳習及び公立普通學校手工實習等に依りて近來新に產出せる本道細工を始め紙、煙草、棉花、米、麥、大豆、甘藷、馬鈴薯、鑛石類、陶器類、織物等を陳列し本道主要產物の種類と其品種及品質改良の成績を示し、又た戶棚の中央には民風の變遷を示すべき人形其他の諸式二個の圓盤あり、一方には農事の改良及び模型を以て一方には農法並に遊惰の風習等舊時に於ける狀態を寫し、一方には一般民風の刷新されたる現時の狀態と兩者を比較對照せる面白き趣向と謂ふ可し。

本道の出陳中最も奇拔にして人目を惹けるは窮乏時に於ける大民の食料品にして各種の草根木皮等五十餘種を並べり、但し其說明に依れば農產の增進に伴ひ近時之れを用ふるもの殆んど其跡を絕つに至れりといふ、欣ぶ可き現象と謂ふ可し



(上)忠淸北道出品農產品
(下)同工業品
―共進會審勢館―

東拓の稻作改良成績(三)
五年間に改良種二十二萬石　改良種普及の情勢

稻作改良の根本は優良品種の栽培にあり、東拓にては採種田を設置すると共に優良種子の貸付を開始し毎年北、慶北の五道を通じ貸付籾七百九十九石六斗餘、此の作付反別一千百八十町歩餘に及び、一反歩當籾二石四斗五升を得附近在來種に比し二割餘の增收ありたり、右の如く成績良好にして農民を利益する事大なるものなれども農家の多くは貧弱にして且つ貯蓄の念乏しきを以て種籾の準備を爲さず收穫物の殆ど全部を食料に供するもの少からざる爲年々種子を貸付するに非ざれば一旦普及したる方面も再び劣等なる品種を栽培するの實情にあるを以て

▲**二年度の施設**　大正二年度よりは之が指導誘掖を一層周密にし種籾は一反歩に付七升以內を無利息にて貸付するは勿論之が運搬費をも會社にて負擔し交換を希望する者には農民をして其數量を取纏めしめ雙方に便宜を失はざる場所に於て改良種を在來種の同量と交換する事とせるも一度種子を貸付せる地には特殊の事情存せざる限り作人をして種籾を準備せしむる方針をとれり尙施肥を獎勵し地力を維持せしむる必要を認め靑刈大豆の栽培を獎勵して之が種子用大豆を會社より補給し綠肥大豆の不適當なる處には大豆粕油粕等の肥料を補給せり斯て**大正二年**に普及せる改良稻種は黃海、京畿、忠南、全北、全南、慶北、慶南の七道を通じ四千二百四十三町步に達し、之に用ゐたる種籾は大正元年度採種小作田產物中の優良なるものなるが三千六十八石に上れり、而して其の總收穫高は約八萬三千石にして平均反當一石九斗五升に當り附近在來種に比し一割八分の增收を示し內約三萬石は小作料として收納せり

▲**稻作改良組合**　之より先き會社は管理他の相當集團せる所に稻作改良組合を組織せしめたりしが組合作人には集合又は共同苗代を設置せしめ苗代肥料として油粕を給與し在來肥料に加用せしめ且つ收穫物の內より翌年の種子用として一反步に付一斗を貯穀し組合に於て之を保管せしむる事とし尙ほ種子用大豆又は他の肥料購入の資金に充つる爲め一反に付一斗を貯穀する樣獎勵し收穫物の調製法を指導し共同販賣を希望する組合には會社に於て相當便宜を與ふる事とせり而して此年設立せるもの五十五箇所、其の改良種栽培面積九百四町步に及び反當一斗四升の貯穀を爲し相當の成績を擧げたり、斯くて改良稻種の普及は年と共に進捗し

大正三年には新に普及したるもの六千七百六十六町步にて既普及地を合せ一萬八百五十三町步の作付を見るに至り之に要したる種籾約五千石は無料にて貸付し又施肥の增加を獎勵する爲め稻作改良組合中成績良好なるものに對し苗代肥料の外本田肥料として油粕、大豆粕を補給せり、而して大正二年度初めて設置せる稻作改良組合は此年百九十九箇所に增加し種子又は肥料資金に充つる爲め相當の貯穀を爲し漸次良好の成績を擧げつゝあり

大正三年度は氣候順調にして病蟲害其他の被害程度僅少なりし爲め平均反當收量二石四升六合に上り附近作付の在來種に比し一割六分餘の增收を示せり而して改良種普及地の**總收穫高は籾二十二萬二千石餘**にして內八萬石は小作料として收納し大正四年度に於ては約一萬八千町步に作付せしむる方針を立てたり(完)

□宗演老師の消息

時下風淸月白老居士御左右益御淸健に被爲居候事と察上候此頃は御地共進會並に貴社御催の家庭博覽會にて定めて御多忙無寸暇御寄しも被遊候事と存候貴地宗敎界の事情は過日大塊、川翁來山の節何かと御物語有之其一斑を承知仕候願くば朝鮮僧侶を誘導して佛法を興隆せしめ以て王法の益々新付の民心を悅服せしめ度ものに御坐候衲も他日好機會を捉へ再び鷄林を見舞ひ前年未到の名山大刹を歷訪して說敎の現狀を視察致たく存居候得共目下內地の巡錫日に月に繁忙を加へ不相變東奔西走致居候

日報歌壇

露の家にて　芳子

○目覺めたる此秋なれば美しきわが越しかたも冷やゝかに見る
○黃金繪のわが文机の灯に狂ふ君に捧ぐる文書く夜頃
○果てしなきわが哀愁にまつはりて河骨の花さびしらも浮く
○文箱よりやゝ色づきてあらはれぬしまひ忘れし靑き酸漿
○月待ちて八つ手の下に佇めば肩に宿りてはたおりの啼く
○泣きつかれ思ひ疲れしひと時は夕の庭にほうづき鳴らす
○君ゆゑに悶ゆるなどゝ書き給ふまことか知らずつくりごとめく

新刊書御案內

書名	著者	定價
鐵統鑑	中山三保太郎	一、八〇
野火 歌集	熊谷武雄	一、七〇
三味線草 新人小唄集	要二	九五
藝術と哲學との間	石坂養平	一、〇〇
すみだ川	永井荷風	一、三〇
歌に入る迄	金子薰園	一、七〇
奇聞珍談南洋土人の話	[illegible]	五〇
性慾と花柳病	[illegible]	[illegible]
性慾敎育の研究	[illegible]	[illegible]
兩京去留誌	[illegible]	[illegible]
頭を抱へて	[illegible]	[illegible]
批評の要義	[illegible]	[illegible]
新書の手引	[illegible]	[illegible]
現代の西洋繪畫	[illegible]	[illegible]
有聲錄	小中村清矩	[illegible]
國民道德	[illegible]	[illegible]
修養の燈	[illegible]	[illegible]
農村改良の話	[illegible]	[illegible]
產業組合の話	[illegible]	[illegible]
一坪農業施設經營の實際	[illegible]	[illegible]
國語百訣	[illegible]	[illegible]
新譯獨和辭典	[illegible]	[illegible]
新說無機化學	[illegible]	[illegible]

大阪屋號書店　京城本町　電話二〇八番　振替京城二五七二

御大典紀念新式完成　製繩機　成功提携
該機賃貸附　一部一臺限り
代金は半額　月賦
現品貸附……機店其他へ申込無代進呈……詳細は營業案內送呈
製造元　大阪本田通二丁目　[illegible]商會

細川侯爵閣下御入京に付熊本縣人相會し御歡迎申上度候間左記御承知の上萬障御繰合御來會被下度候
場所　南山町京城ホテル
日時　十月八日午後六時
會費　金參圓五十錢　當日御持參のこと
出席申込所　十月七日迄に大和町三丁目小川靖雄方電話一八二一番
十月五日
歡迎會發起人總代　林市藏　阿部充家　佐々正之

公告
當銀行ハ業務整理ノ都合上九月二十二日ヨリ本月五日マデ臨時休業仕居候處尙整理未了ノ事項有之更ニ來ル九日迄延期ノ上臨時休業致候條此段公告候也
大正四年十月五日
株式會社韓一銀行　東幕出張所

購買入札公告
一、式武封皮類
詳細ハ朝鮮總督府官報ニ在リ
大正四年十月六日
朝鮮總督府遞信局

京城學校組合公文
京城學校組合告示第三〇號
一金壹百圓
右者京城和泉町阪田鶴海殿ヨリ四女道子死去ノ際各位ヨリ寄贈セラレタル香料ノ返禮ニ代ユル旨ヲ以テ前記ノ通リ京城學校組合特別基本財產ノ內ヘ寄附セラレタリ
大正四年十月五日
京城府尹　金谷充

鐵道債券募集廣告

本年大藏省令第二十七號ヲ以テ鐵道債券募集相成候ニ付應募御望ノ向ハ左ノ各項御承知ノ上當店ヘ御申込相成度候

一 募集金額　三千萬圓
二 利率　年五分
三 利子仕拂期　每年三月一日及九月一日
四 償還期　大正九年九月一日迄
五 應募價額　額面百圓ニ付最低金九十六圓五十錢
　但價格ニハ十錢位ニ滿タサル端數ヲ附スルコトヲ得ズ
六 應募保證金　申込高百圓ニ付金五圓ノ割合ヲ以テ申込ノ際拂込ノ事
七 拂込期日及共金額
　但最低價格以上ノ差金ハ第一期拂込金ト共ニ拂込ノコト
　第一期　大正四年十一月十日　募入高百圓ニ付金五圓(保證金振換)
　第二期　同年十一月二十日　同　金四十一圓五十錢
　第三期　同年十二月四日　同　金五十圓
八 拂込延滯日步　拂込金百圓ニ付一日金四錢
九 初期利子　額面百圓ニ付金一圓三十四錢ノ割合ヲ以テ大正五年三月一日之ヲ仕拂フ
十 應募申込期間　大正四年十一月一日ヨリ同十五日迄
　但シ期日前ト雖トモ便宜申込ヲ受クヘシ
十一 募入方法　應募價格ノ高キモノヨリ順次募入ス

大正四年十月
日本銀行京城代理店

秋季大附錄　(小說特別懸賞)

糸瓜の朝……正宗白鳥
產婦……森田草平
身代り……上司小劍
ボールに書いた字……田山花袋
妬情……田村俊子
小春日和に(一等當選)……塚越亨生
後悔先に立つ(二等當選)……田中民藏
▲ワイルドを語る……野口米次郎
現俳壇の人々……大須賀乙字
ハントが舊談……大谷繞石
港の聽望……木下杢太郎
萬葉短歌私抄……尾山篤二郎
ヒユマニストとしての批評家……マキシム・ゴーリキイ
九月の創作……中村星湖
我幼年時代……
▲雜感　武者小路實篤
▲靜かな日　田山花袋
▲吸取紙　長谷川天溪

文章世界
秋季特別號　本號(倍大)に限り　定價四十錢(郵稅二錢)
東京本町　博文館

簿記一募集
私立認可　日本簿記專修學校

學校最良の副敎科書
主幹頭本元貞先生

英語熟達の秘訣
ジヤパンタイムス少年號

獨特の編纂法を以て天下に鳴る本誌は益其特長を發揮し……

ジヤパンタイムス學生號
時間學力經費の都合上日刊英字新聞を購讀する能はざる活英語研究者の爲め正確なる英語を敎ゆ
月二回(一日十五日)發行　壹部十錢　半年一圓五十錢　壹年二圓八拾錢
東京日比谷公園前　振替東京二七八九〇　ジヤパンタイムス學生號出版所

長澤龜之助主幹
問題解答號
大正四年官立學校入學試驗
數學の雜誌
初等數學
發賣元　東京　東海堂

◎海軍補充案 内容經過發表

海軍省にては五日海軍補充案の内容及び其今日迄に至りたる經過の大體を公表せり其大要左の如し（東京特電）

帝國海軍軍備充實に關する方針は日露戰役後確定せられ其標準は其術上の見地に於て之を立て艦齢八年を超えざる戰艦八隻巡洋戰艦八隻より成る主力部隊と巡洋艦、驅逐艦、潜水艇よりなる補助部隊とを以て戰列艦隊とす之即ち所謂八八艦隊にして此の議は昨年の防務會議に於ても亦是認せられたるところなり、然れども實行方法としては一時に之を充す事能はざるを以て不取敢其一部即ち戰艦八隻、巡洋戰艦四隻、巡洋艦及び驅逐艦潜水艇特務艦等若干所謂八四艦隊にして其一部は既に竣成し又は帝國議會の協贊を經て實施に著手せるものあり扶桑山城伊勢日向の四隻戰艦は今後補充を完成する豫定なりとす斯て二十餘條の計畫は防務會議並に閣議の是認する處なるも現下の財政状態に鑑み五年度より八年度に亘る四箇年度繼續費四千五百萬圓を以て戰艦一隻巡洋艦二隻驅逐艦一隻潜水艇三隻特務艦一隻を建造すべき豫算を編成し自餘の補充は六年度より之を計上するの止むなきに至れり此豫算は大正五年度に於て起工すべき艦艇の豫定數全部にして何等の査定を加へられたるものにあらず

◎法案附議 一部論者の說

國民代表大會法案附議の爲め四日參査委員會を開きしが一部論者は既に國體問題に關しては各團體各機關各地方の主張一致し民意の嚮ふ所定まれるに尚ほ複雜の手續を爲し形式の爲め時日を遷延するの必要無しと同法案を修正し一層敏速なる方法を希望しつゝあり（北京特電）

◎代表人物物色

五日代行立法院に提出されし國體即決に關する國民代表者大會組織法案の運命は不明なるも政府は其通過を豫想せりと見え四日東三省、軍民長官に對し各縣に通達し國民代表たる可き人物を調査し置く可しと命じ來れり（奉天特電）

◎昨日の定例閣議

五日は閣議定例日に付大隈首相以下各大臣午後一時より永田町首相官邸に參集し閣議を開き内外の政務に關し各主務大臣より其々報告ありて午後二時散會せり（東京特電）

◎青島歸客談

青島在勤外務省三等書記官藤田榮介氏五日商船會社北九にて歸來したるが氏は往訪の記者に語る、青島駐在の八十名の憲兵中四十名支那人に對する態度惡かりし爲め轉勤せしめられたり支那人は一時憲兵の態度等に憤慨し同地を立退く者多かりしも支那稅關開始されてより歸來する者多し、又稅關長官ギンテルは未だ拘留中なるが麥酒會社の事務員二人に對し退去を命ぜられたるも同社は英獨の合資組織なれば依然營業繼續し居れりと尚ほ青島駐在米國領事の途本國に便乘せり（門司特電）

◎對勃通牒と英國

勃牙利に對する露國の最後の通牒は英國に對し滿足を與へたり（倫敦電報）

◎無盡業法移管

五日官報、勅令百七十八號を以て無盡業法第二十九條に依り主務大臣の職權に屬する事項を地方長官にて行はしむる件を公布し十一月一日より施行せらる（東京特電）

◎長距離飛行 準備

特別演習參加の爲め百七十哩の長距離飛行も愈々七日に迫れるより之に參加すべき長澤、伊庭、武田、川上の各將校は五日早朝より飛行場に現はれ壯快なる豫備飛行を行ひ又偵察將校藤田大尉以下五名も出場し報告筒投下の練習を行ひたり（東京特電）

◎下院視察團撫順行

衆議院支那視察團は豫定變更、五日忠魂碑、南滿醫學堂を見て段將軍を訪ひ午餐の饗應を受け午後三時五十分撫順に向へり（奉天特電）

◎米棉大暴騰

米棉二圓方大暴騰の報あり（大阪特電）

◎鐵道局視察團

鐵道局視察團二十五名は五日午後五時三十分臨時列車にて來著元山協贊會員の案内にて元山市中其の他を觀察し午後十時二十分發にて京城に向ひたり（元山發電）

◎德富上院議員

貴族院議員德富猪一郎氏は渡鮮の途五日午前六時三十分大阪驛通過せり（大阪特電）

東京發別電

◎露の對勃決心

露國は遂に勃國に對して最後通牒を發し勃國公使伯林を引上げずんば駐勃露公使は引上ぐべしと通告す

◎歐洲戰勝敗の決

東部に於ける露軍聯合軍の戰線は後續を保ちつゝあり大勢の歸結は一にバルカンの形勢如何にあり、

◎山城艦進水式

新造艦山城は十一月三日横須賀に於て進水式を擧ぐる筈

◎首相西下

大隈首相は來る九日東京發・京都大和畝傍伊勢大廟を視察す

◎鮮銀總裁の後任問題

市原朝鮮銀行總裁の後任は法學博士井上辰九郎氏なるべしとの說起る

◎鮮銀總裁後任

故市原朝鮮銀行總裁後任は法學博士井上辰九郎、前大藏次官勝田主計興業銀行副總裁小野英二郎三氏昨今專ら擬せられつゝあるが政府に於ては可成政黨の色彩を避け人材本位を以て選任する方針なりと

◎與黨大合同企畫

來る十一月の御大典を機とし全國の政客京都に參集するを以て其機會を利用し政府與黨の大合同を企畫せるも無所屬側は頻りに之を避けんとするものあり亦同志會に於ても強ゐて異分子の合同は好まざる模樣なれば之が大合同は不可能なる可し

◎三黨組織企畫

脫黨組長島隆二氏以下政府反對側は目下三黨組織の企畫に腐心しつゝあり

新補第六師團長陸軍中將明石元二郎氏

新補參謀次長陸軍中將田中義一氏

●恐る可きは鐵道の威力 朝鮮から滿洲、滿洲から蒙古

中村是公氏談

朝鮮は幾度か通つたけれど今度の樣に悠つくり見物した事はなかつた何れ澤山貰ひ込んだ調査物や何彼拜見して朝鮮を知る事に努め度いと思ふ今度の樣に澤山內地の名士が一箇所に集つた事は全く珍らしい事で又と言つては斯樣な事は見られまい朝鮮が變つて行くの

▲見る度每に

著しいもので其處に寺內總督の力が表現してるのだ早いものだ最早や五年になる其僅に五年の間に朝鮮をして斯の如く急速の發達を爲さしめたものは一に鐵道の力である恐るべき力だ此力は茫莫とした曠野を見る見る豐穰の沃土に化して行く、滿洲なども最初は頭から見縊つてゐた支那政府からしてそうだつたのだ、支那政府が滿洲を見るには乾度南方肥沃の地域と比較して見るから滿洲が瘦土と許り見えるのだ、滿鐵でも我々初め滿洲を今日あらうと迄は思へなかつた、然し茫莫として滿鐵の沿線から無限の富が湧出して來たのだ第一與が廣い其廣い與からいくらでも大豆が出て來る其處に行くと鐵道の力の

▲偉大さを稱せ

ねばならない然し滿洲と云ふ處は冬になると地下四五尺凍りついてしまふから川でも畑でも立派な道路となる其時期になると奧から鐵道線路のある處迄搬び出して來る從つて滿鐵の忙しいのは期節がある其期節になるとさしもの貨車に不足を訴へる程だ當に貨車許りでなく常日は廣過ぎる位の大連埠頭が寸土の隙もない位になる盛んな一頃三十萬噸の大豆が埠頭に堆積された事があつた程だ是れで四時平均した出荷がある樣になれば占めたものだが何れも農業地方であれば夫れは免れ難い朝鮮にしても同樣鐵路が

▲其産業開發の

隨一の力となり農業國丈けに出荷にも時期があるのは止むを得ぬ、此の出荷の不平均を平均せしめる爲めには益々道を延長して奧から奧へと開發の實を擧げて行かねばならぬ朝鮮は滿洲と地續きだから朝鮮が開けてしまつたら滿洲に推出すといい滿洲には未墾の曠野も果てしなく奧には蒙古もある大和民族の進むべき行手は限り無く光り輝いてゐる

●移入酒商大會

朝鮮移入酒商大會は四日午後一時三十分より京城日本人商業會議所樓上に開會せり來會者は京城、釜山、仁川、元山、大田、木浦、清津等の各地より集まれる同業者三十餘名の外石塚農商工部長官代理深尾事務官檜垣京畿道長官代理木岡事務官金谷京城府尹等臨席し京城酒商組合長堀尾潔氏開會の辭を述ぶるや本間事務官起つて石塚農商工部長官の祝辭を朗讀し仁川酒商組合長の祝辭朗讀あり次いで議案を決議し一同記念撮影の後午後五時三十分より朝鮮ホテルに於て晩餐會を開けり、石塚長官の祝詞及び決議事項の主なるもの左の如し

祝辭

酒類の需要は人口の增加と相俟つて年々增加し今や朝鮮に於ける移入年額實に五十七萬圓の多きに達し尚ほ年々增加の傾向あり此時に當り恰も始政五年記念朝鮮物產共進會の開催を機とし茲に移入酒商大會を開き業務の改善圓滑を圖らんとするに際し其取引の改善を得たるを喜ぶ蓋し此の如き機會に於て先づ研鑽を重ね同業者の利益を增進し取引上の弊害を芟除すると共に酒類の販賣に付ても亦相當の研究を致し以て一般需要者の便益を圖り益々斯業の發達を期せられんことを一言希望を述べて祝辭に代ふ

大正四年十月四日 朝鮮總督府農商工部長官從三位勳一等 石塚英藏

主要決議事項

朝鮮移入酒商聯合會を組織して事務所を京城に置くこと▲聯合大會を每年一回京城に於て開催すること▲今後共通の問題に關しては各地聯合して協同の步調を採ること▲取引改善の方法を講ずること▲濫賣の弊害を防ぐ目的を以て之が運搬の任に在る鐵道局及び汽船會社等に對し充分なる取締をせられたき旨聯合會の名を以て交涉すること

●有形的開發の大成功 次の問題は無形的同化

中橋德五郎氏談

今度の共進會は朝鮮拓殖第一次の成績發表と云ふ譯だが朝鮮開發としては非常の好成績だと言はねばならぬ物質的拓殖々民政策に於ける日本人の手腕が歐米人に比して決して劣りはしない否寧ろ或る方面に於ては遙に歐米人以上にあると云ふ事を事實の上に於て顯然たらしめた點は共進會の意味に於て予は今回の朝鮮物產共進會の成功を祝したいと思ふが是れと云ふも朝鮮なるものが存外に近い事と氣候が内地と同樣であつたと夫れに十年の間に著しい事もなかつたからである是れ皆朝鮮開發上此上もない幸福となつた事勿論である

先づ何よりも臺灣と比較して見ればなるまい

臺灣は既に二十年の今日も朝鮮程ないのに拓殖人の數は漸く十萬そこいらで開拓と云ふ點から見ても到底朝鮮とは比較にならぬと思ふ、夫れが皆右の三原因が然らしめてゐる何を言つても朝鮮は近い山口、福岡、大分其他の住民は隣村へでも行く樣な氣で盛に朝鮮に來る而して種々な事業を起して存外の成功を見る樣式で以て田を耕やし畑を作り其れが氣候がいゝものだから悉く茂等に出來る朝鮮に於ける農產的施設が好成績を擧ぐるを得たのは故ある哉である

次の問題は無形的精神的同化問題である

此問題たるや國民が適當に完全な好結果を擧げてゐない點に痛切したならば大和民族は世界に雄飛して殖民政策の模範たるに到らねばならない此問題は世界列國の執つた各自異つた政策は最も興味ある事である殖民政策は世界列國の問題なのである日本は朝鮮新附の民を如何に取扱ふべきか其根本政策は如何之は大に研究すべき問題である而して之が成功すれば前に言つた如く殖民政策の模範となり得るのである

◎鰆漁試營開始

山口縣山神組に於ては江原道通川郡踏錢面致弓里港を根據とし鰆釣漁業の計畫にて九月十三日約六十噸に漁夫百三名搭乘同地に到著せるが漁獲物は內地に輸送の目的にて同港に氷室貯藏庫を置き同組經營の各漁場漁獲品を蒐集する運送船に貯藏氷を供給することゝなし同地に事務所を設けて專ら試驗的經營を爲しつゝあり成績好良なるに於ては明年より相當の設備を施す方針なりと該地方は一小漁村に過ぎざるも今回多數內地漁船及び漁夫入込める爲め一大活氣を呈せりと

◎人肥界の混戰

本年は[illegible]よりも十日許前迄に[illegible]組合員に[illegible]住友製肥の肯出しある爲め[illegible]今後人造肥料市價の[illegible]入札を行ふこととしたるは[illegible]一叺九十八錢[illegible]住友の[illegible]肥一叺の運賃十錢乃至十二三錢にて地方に於て一叺七十二三錢にて賣出すなりとあり之に依りて見れば住友の手取代金は一叺六十錢以內となり隨分思ひ切つたる安賣と云ふべく之には多少住友が今賣出して居るたるべしと雖も他の同業者としては依然運賃振込の一叺八十錢などを唱へ居る譯にて夫々各地代理店の督促により住友に對し應戰の手筈を附けつゝある如くなれば肥料賣行の最盛期たる本月中旬には各地方に混戰起り人肥市價の暴騰を來すやも圖られざる兆候あり（大阪）

◎九月の官製鹽

九月中に於ける官製鹽高を聞くに廣梁灣鹽田天日鹽七百四十四萬二千五百五十斤、朱安鹽田天日鹽十八萬一千百十斤、合計七百六十二萬三千六百六十斤にして別に朱安煎熬鹽五萬四千八百十一斤あり、而して四月以降の累計は廣梁灣天日鹽四千二百七十八萬七千八百五十斤、朱安天日鹽四百六十四萬二千九百三十斤、合計四千七百四十三萬七百八十斤にして朱安煎熬鹽六十八萬二千二百六十二斤を算し漸次不良の成績を回復しつゝあり

◎勤續店員表彰

京城酒商組合にては四日午後三時三十分より京城日本人商業會議所樓上に於て組合內勤續店員の表彰式を擧行せり、一同席定まるや組合長堀尾潔氏起つて式辭を述べ前田幹事の祝辭、店員總代華島和平次氏の答辭ありて規定の賞狀及び賞牌を授與し午前十一時四十分式を了りて一同記念撮影を爲し、次いで青木堂樓上に午餐會を開けり表彰者は七年勤續者華島和平次（前田酒店）以下二十二名にして五年勤續者は大本龍生（山邑支店）外四名、三年勤續者は阿部辨治（三巴商店）外十五名なりき

◎九月中移輸出

仁川港九月中移輸出米は五千九百九十五叺にて八月中の一千三百叺に比し四千六百九十五叺の增加を來したり主要仕向地は大阪にて昨年十一月より本年九月迄の累計は玄米十六萬五千九百八十四叺中白七千三百三十一叺にて計十七萬三千三百十五叺なり

◎視察團來著豫定

四日迄に內報ありたる視察團は十一日山口商業學校生徒三十餘名▲十六日名古屋新聞主催五十三名（同地の名士實業家資本家の多數を以て組織さる）▲廿日鐵道協會々員約二百名等なりと

人事消息

▲天野喜之助氏（群山府尹） 入京中のところ五日朝歸任
▲磯部誠哉氏（群山商業會議所會頭） 同上
▲白仁武氏（關東都督府民政長官） 五日夜歸任
▲近藤仙太郎氏（工學博士） 元山に出張中の處六日午後七時歸京
▲古市公威氏（工學博士） 同上
▲日下部辨次郎氏（工學博士） 同上

商況

大阪株式特電 參考

▲五日後場（正米二節氣強し）
寄付 [illegible]
高値 [illegible]
安値 [illegible]
大引 [illegible]

▲五日後場 大阪前十二錢後寄[illegible]十錢の入直なるも二節[illegible]錢と安移りにて高値中八圓七十三錢より五錢あり四錢引先入則五十八錢と四錢安に寄付七[illegible]

▲依然保合 [illegible]

五日の十二月限 後場 寄付 八圓五十八錢 [illegible]

實買取組高 十月限 七千[illegible]百五十石 十一月限 [illegible]

京日案內

◎普通 一回一行金二十錢（但割引） [illegible]

◎周旋業 ◎女中、書生取扱 ◎藝娼妓 ◎酌婦 ◎仲居 京城黄金町三丁目 萬成舍 電話二七三五番 65[illegible]

◎女中口入 官舍、商家、旅館 京城明治町 高年社 電話一八四四 620

◎貸衣裳 共進會場外驛合美術館前 漢江通二三番地 希望者に即貸與す 654

◎店員入用 十六七歲より廿歲迄の希望者來店 京城本町二丁目 大正足袋支店 683

◎番外 [illegible]

寫眞 山崎寫眞館 682

▲りん病ばい毒 [illegible] 京城南大門外 ドラッグ商會 563

◎募集 新聞配達人數名至急募集す 希望者本人至急來談あれ ◎明治町二丁目 町田新聞部 673

◎和服裁縫 經驗ある者至急高級を以て雇入たし 望の方は京城本町一、赤帽子印店に御來談 649

◎開業御披露 京城南大門通り 漢陽公園脇 漢陽旅館 電話二二一九 營業主大原松次郎 626

◎毛皮油ヌキ ◎防寒用具 ◎毛ショール ◎各種皮革 ◎毛込染一式 製造販賣 京城明治町二 電話一八四〇 吉岡商店 625

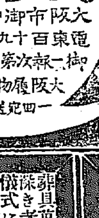
◎乳母入用 望みの方は是非本人御來談ありたし 京城本町二丁目 電話二二四九番 金銀屋 664

◎旅館 宿泊料金一圓均一 特に別府湯泉の設備あり 地方各位樣の御便宜上前日若しくは御通知に應じ停車場迄御迎に差向け升 京城本町三 電話一四九三番 大和館 661

◎書記 高商卒業程度甲種商業卒業程度 右採用す希望者は日英文履歷書携帶午後一時半頃來談あれ 長谷川町五八◎シンガーミシン會社 679

花柳病 皮膚病 專門 永樂町商品陳列所坂の上 須古醫院 電話二〇二番 566

履物問屋 井商田屋舖 大路本店 大阪市御堂筋北久太郎町 電話東百九十番 振替大阪四一八八一 御一報次第御相場表送付可仕 毎月大阪履物商進會ニテ一回宛特約可致候



親切丁寧 客室完備 本町大和町 松岡旅館 電話三〇五番

名物 鯛めし

共進會開期中大勉強 折詰辨當 仁川水族館正門前 會席 御料理 松乃家（電話六二九番） 團隊多數の注文續々有之候に付可成前日迄に御申込被下度候

蛇印アンチピリン かぜ ねつ 最良藥 早く治る藥 よくキク藥 さむけ出で發熱し、頭痛し手足だるく、水ばな出る時本劑を服せば不思議の効あり（五十錢、十五錢、廿五錢）に付有り其の商標に御注意 大阪 本舖 東京 丹平商會

朝鮮銀行總裁從五位勳三等市原盛宏病氣の處養生不相叶本月四日午後八時五十五分卒去致候此段謹告仕候

追て葬儀は來る七日午後四時三十分京城鍾路中央基督教青年會館に於て執行可致候

大正四年十月五日

嗣子 市原宏

親族總代 久保田吉律 森忠雄 市原眞志男

友人總代 澁澤榮一 荒井賢太郎 德富猪一郎 水越理庸

葬具萬般整頓罷在り斯業に經驗深き者專ら業に當り如何なる御儀式にも決して差間無之候 京城大和町二丁目（總督府前通） 大和葬儀舍 電話二〇四二八番

本社は支店出張所等無之に付御用の節は直接御用命願上候 旭町二丁目（名古屋城下） 株式會社 京城葬儀社 電話一五六七番 二川屋 中河原重吉

靈柩馬車の設備有之候 電話九五七番 井上芳太郎

閑院宮兩殿下御乘艦

御機嫌麗はしく御歸還遊ばさる

五日朝來一天拭ふが如く晴れ渡り一片の雲影だになし午後四時十五分閑院宮同妃兩殿下の御召列車第二プラットフォームに御着あれば殿下には陸軍大將の御正服に大勳位菊花大綬章を帶ばせられ妃殿下には純白の御洋裝に同じく純白のボンネットを戴き眞白き面帕を召させられ兩殿下共御機嫌殊に麗はしく佐々木道長官、若松府尹、橋本署長、堀井驛長等の御先導にて陸海軍儀仗兵、各學校生徒、赤愛國婦人、在郷軍人、官民各代表者堵列したるに御會釋を給ひ稅關前御通過稅關棧橋より艀汽艇に召され警備船玉浦丸御先導中上港口の御召艦に御移乘あらせらる此時常磐、日進の皇禮砲は殷々として港内外に響き碇泊中の大小汽船皆滿船飾を爲し港内美觀を極む御召艇には京城より扈從の寺内總督、立花警務總長、常磐、日進兩艦長御陪乘御召艦に向ふ此日海上浦穩水天一碧秋氣水の如し寺内總督は御召艦にて御別れ申上げて引返し御召艦は午後七時拔錨港外に去る釜山市中は各戸國旗を掲揚し拜觀の日鮮人諸を爲し一時驛、稅關附近は人山を築き交通杜絶せり寺内總督は停車場ホテルにて夕餐を喫し暫時休息の後午後七時五十分發臨時列車にて立花警務總長、川村第九師團長、大屋鐵道局長官以下京城よりの奉送員と共に京城へ向へり(釜山特電)

●技能德操竝び高し

躍如たり故市原總裁の面目

朝鮮銀行理事 水越理庸氏談

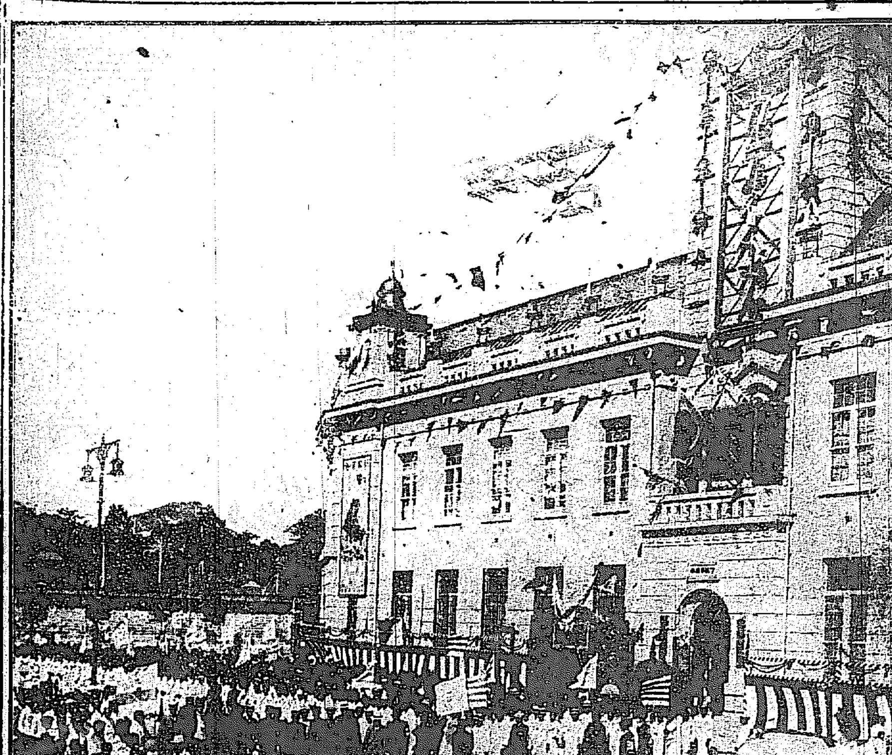
發病以來十日を過ぎぬに此凶事に遭つた事とて吾々は全く夢心地である御承知の如く永く一緒に勤めて居たから總裁生前の言動に就いては色々見聞してゐるが今は之れを纏める暇が無い故自分は只だ總裁の面目を窺ふに足る可き一二の逸話を申上げ度いと思ふ、先づ銀行に關した事では總裁が日本銀行大阪支店長代理を勤めてゐられた時、慥か明治二十八九年の頃と覺えてゐるが同地の逸見銀行といふのが

▲支拂を停止 した事がある其處で大阪の普通銀行業者は之れを救濟する爲め共同して日本銀行支店に救濟資金の支出方を請求した、すると氏は各銀行が連帶保證するなら希望通り支出するけれども左樣で無くば否だと答へた一同は此條件に甘じ無いで遂に東上し支店監督の任に當つてゐる某日銀の重役と談じ合つてヨリ以上輕易な條件の下に支出を承諾せしめ意氣揚々と大阪に歸つて氏に其顛末を告げ速に支出せんことを要求した、すると氏は容を正して不肖なりと雖も苟くも大阪支店長代理たる以上大阪に於ける日本銀行の業務は最も

▲大阪の事情に 通じてゐる自分が全責任を以て處置をする、假令何人が如何にいふとも自分の承認を經ずして之れを支出する事は出來ぬといつて頑として聽じない、之には一同其途を失ひ遂に閉口して提出した條件に服して氏は其職責を完うしたさうである、夫れから横濱市長を辭任された際、市會では三千圓の慰勞金を氏に送つたが金に就いても何時も綺麗でなかつた市會の處置に對して慨て慨歎して居た氏は此機に於て議員連を戒飭する爲め其儘の

▲金額に熨斗 を附け直ちに市會の事業中に寄附して仕舞つて議員達の毒氣を拔いた事がある此の二の逸話は故總裁の技能と德操の一端を窺ふ事が出來ると思つて特に紹介する次第である夫から今一つは、先月勝田主計氏が入京の際聞いた話しだが例三年前朝鮮を通つて日本に行つた某佛人があつた、同人が勝田主計に會つた際自分が朝鮮で鮮銀總裁の市原といふ人に會つた、日本に渡つて隨分多方面の人士と會見したけれども之れ程立派に正則な英語を綴る人は見た事が無い、市原氏の英語は

▲實に日本一 だと語つて非常に感心して居たそうである、之れは勝田主計而已でなく會ふ人毎に話してゐたといふが此佛人は朝鮮に輕便鐵道を敷設する計畫を齎らして來たので之に就いて意見を聞く爲め總裁に面會したのだが總裁は單に朝鮮の一部を視察した許りで可なり資本を要する鐵道を計畫するが如きは早計だといつて其計畫に反對論駁した樣に聞いてゐた、夫れに拘らず傾く賞讚の辭を吝まなかつたといふのはよく〳〵感心したものに相違ない、今日の實業界中木村若の談の如く故總裁の英語は慥かに總裁が今日の地位を得られた要具であつたことは爭ふ可からざる事實である、渡鮮以來の總裁は誰れも熟知されてゐる處だから此一事に止めて置く



=(問訪博庭家の號重三機行飛)=

●能樂から見た妓生の舞踊

日本の雅樂そのまゝ=蜂須賀侯爵の談

共進會の演藝館で朝鮮妓生の舞謠を見て參りましたが日本の雅樂に非常によく似てると思ひます極みなく長閑に單調な處は誠に上品でありますが鳥渡他に比類を求める事は出來なからうと思ひます其日本の能とは全く相違してゐます其殆んど獨特な調子が尙ぶべき所でせう此頃が内地では非常に謠曲が流行つてゐます是れは謠ふ方許りで相手が要らない娛樂として謂はば踊るのであるが能になるときうは行かない鳥渡理解され難い所がある隨つて能は謠曲の樣に一般に大流行すると云ふ譯には行かない然し能を見る人は昨今頗る增加して來た見る人が增加して來た事は理解力も進んで來た證據となる隨つて其趣味も普及して行く譯である=が矢ツ張り怎うしても義太夫だとか常盤津、清元などゝ云ふ樣に一般的となり得ない餘りに上品過ぎるからなのだらうとも思はれる能や謠曲は勿論雅樂の如きも大に保存に努める必要があると思ふが朝鮮の舞謠の如きも殆んど唯一である丈夫れだけ大事に保存して朝鮮趣味の古い遊い所を殘して置き度いと思ひます唯一度見た許りで舞踊の方も歌謠の方も樂器に就ても充分に知るを得ないが仲々上品な古雅なものとして長く保存される事を希望したいと思ひます

大共進會

●天勝一行乘込

六日夜盛な行列

天勝一行三十九名は六日夜乘込の筈にて協贊會は當夜五十數臺の腕車を連ね樂隊を先頭に花々しき行列をなす可く初日開演は八日頃の豫定にて初日は午後二時より慶會樓にて盛なる歡迎會を催すべしと

●菊花及ダーリヤの展覽會

協贊會内の角力舘は請負人に於て最初の契約を履行せず素人角力を開演せざるを以て今回同所に菊花及びダーリヤの展覽會を開くこととなしたれば所有者にして出品希望者は協贊會宛申込むべしと

●僞造の小切手

愛媛縣伊豫郡砥部村宇川登京城御成町廣島館止宿中なる佐川直義(二二)は窃盜前科犯者にて以前明治町二丁目月本方に雇はれ中同家にありたる百三十銀行京城支店の當座小切手用紙七枚と現金二十圓及び額面八圓の小切手を窃取し額面小切手を以て同支店より八圓を引出し窃取の用紙には額面二百圓振出人には前の雇主月本の氏名を用ひ裏面には南山町二丁目五十六渡邊文次郎と詐稱記名して前記支店より二百圓を詐取し九月二十日には南大門通四丁目の印版業李漢榮に依賴して『渡邊』なる木印を作らせ前記の小切手を僞造し尙別に小切手を僞造して南三軒の商店にて行使し剩錢迄騙取し尙同月二十二日より原籍廣島市鐵砲町二十六番地當時永樂町居住土地調査局員廣田正輔と詐稱して前記廣島館に投宿しゐたるを本町署の刑事に看破されて御用の網にかゝれり尚同人が騙取したる金額は二百數十圓に達し右の金品は悉く衣類其他の代金に費消したるものなりと

●ラヂウム石

京城旭町三丁目

[illegible]滯在中の遊覽客人酒井猪吉氏は這回諸氏に奏効著しき奇石を携へて入京來る十一月中旬まで當地に滯在する豫定なるが奇石はラヂウムを含有せるものにて東京に於ても五百餘人の患者に施療を試みて頗る効果多かりしが一般皮膚病、リヨウマチス、脚氣、胃腸、子宮病など何病にても奏効あり治療法は唯だ患部に石を接觸するのみにて足り頗る簡便なるものなるが希望者には無料施術する由

是非觀て置かねばならぬ

御婦人達と此頃の家庭博

家庭博覽會

知名の紳士[illegible]の入場引きも切らない家庭博に[illegible]入京中の[illegible]山根武亮氏は四日夜來場して仔細に觀覽された五日の午前十一時過ぎ八の出花の眞最中尾崎行輝氏の操縦する飛行機三重號は共進會訪問の途中往復二回まで低空飛行を試みて我が家庭博を訪問した、市街の眞中で低空飛行を行ふのは飛行家の最も危險とする所であるが流石に熟練せる尾崎氏は雨後の風さへ吹き初めた此日に大膽にも思ひ切つて家庭博の上方に來ると次第に下降して高さ百四十尺の高塔を一廻りすれば折柄入場中の家庭博觀覽者は一同後庭に出て旗を振り萬歲を唱へて共行を歸うた共進會訪問の歸途にも同樣高塔を一廻りして見事な低空飛行を續けて龍山に飛び去つた時の家庭博内の賑かさは別段であつた午後は例の如く婦人連れの觀客多く[illegible]日ですが來て見ました[illegible]記官長夫人は令嬢久子の[illegible]人同伴で來場、お臺所で、[illegible]いてない應接間などを[illegible]人が熱心に研究して居られた、令嬢の久子さんはお歸へり掛けに例の[illegible]んに鳥渡相手になられると安さんは齒を剝いて怒つて見せて令嬢や夫人を驚かせて大愛嬌、後庭は這麼具合で大賑ひ、夜になると此晩から龍山の[illegible]勉氏の出品に係る五百燭光のプランチャードランプ三個は點火されて其明るさは恰も晝を欺く許り入場者の飛入餘興などあつて趣々の賑はひ、今晩からの家庭博後園は愈々各種の設備は增して秋の夜の一晩をこゝで一家族遊び暮らすに恰好の場所となつた

えんげい

▲佐久良座の舊劇

龍山の佐久良座の大阪俳優市川新昇、市川照笑、中村雁十郎の一座が珍らしい丁髷芝居といふところで受けてゐる、伊賀越道中雙六の通し狂言に向つて前に白石噺の揚屋を切に一座大車輪といふ四日の晩、木戸の二十五、均一なども大に好い。韻子の泥臭のに輪をかけた樣な新昇の先太夫右衞門は推り役、恐ろしい程々しい平作を勤める雁十郎二役、幸兵衞の方がいゝ然し平作役者は此座では矢張り同人を措いてない、眼分の十兵衞は鐵漿の藝人としては台詞も硬いだし隨分結構十兵衞だが少し樂に演過ぎてる。およね、おたにの二役を勤める鶴枝といふ女形、平作内の場、幸兵衞内の場の長丁場を可なりにこなしてゆくのは見上げたものがある、別に之れといふ程の役者もゐないが滿更捨てたものでもない、切は觀なかつた

▲三木助來る

お馴染の桂三木助は小隊を連れて來る、有朝樂の[illegible]その他一行七名にして五日夜より大正館に開演したり

讀者文藝

(一等には五十錢 二等以下の賞品切手贈呈)

俗謠『軍艦』

○男やもめもきれいなものようそか軍艦見ておいで(一等) 南大門局 中田榮一

○海のひろきな日の旗仰て漕ぐ行くぞへ黑艦が 平壤 みさな

○狂ふ荒波二つに分けて進む御紋章の軍艦 沙里院 系子

○浮ぶ軍艦朝日に映えて波も静かな珊瑚島 龍山 寛一

次回俗謠『月』 發表來る月曜日

龍山吉原松籌氏に住所が返つて來ました御住所至急本社まで 京城の葉子さん御住所本社まで

□奈良丸を聽く

滿員の盛況は流石々々

蓄音機でお馴染の吉田奈良丸、道が道は浪界の横綱さも何とも言はず、二三日前から出來たてのホヤ〳〵の有樂館に大きく掛へ込んだ所へ、先づ以て蓄音機大將、イヨー奈良丸先生の御名を申さうか、僕の聽いたのは三日の晚廣い館内上等席を除いて館詰の盛況は浪狂の客を拍つてぶ條だ。吉田久菊といふセンセイの乃木大將傳さある、その途中から聽く、殊樂だと言やあそれまでだが金鍛身澀ひが出る樣な上ツ調子で乃木將軍の口直似なんぞされちやあ、トテモ助からぬ。次ぎの奈良丸に至つては矢張り名人と言はれる丈あつて諸事嫌味が少い金の玉を轉ばす樣な聲、落つきがある大石郎の何さやらさいふのだつたが直ぐに節から這入つて會話の繰りになつてもソツがない聞者を歎かむく手段の枕藝、内藏之助の苦衷もよく見えたが、島津の重臣で内藏之助の心事を知り拔き漫羅聊發の裡にある内藏之助に陥ながら同情してゐると云ふ武士の面目がハツキリ出てゐた、殊に山科への歸り途がよしあと一席あつたが時間の都合で歸つた(太郎星)

下關期米

未著

仁川米豆取引所

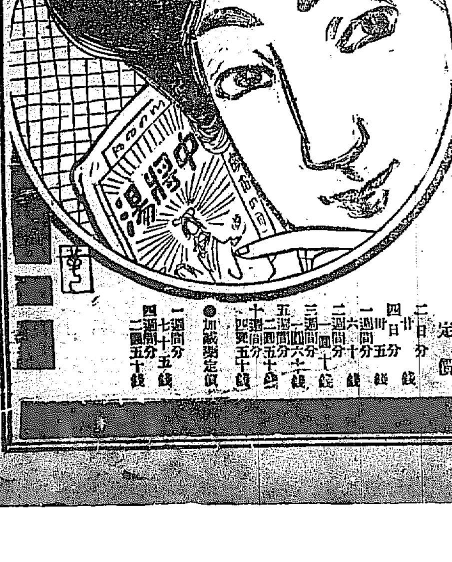
[illegible]

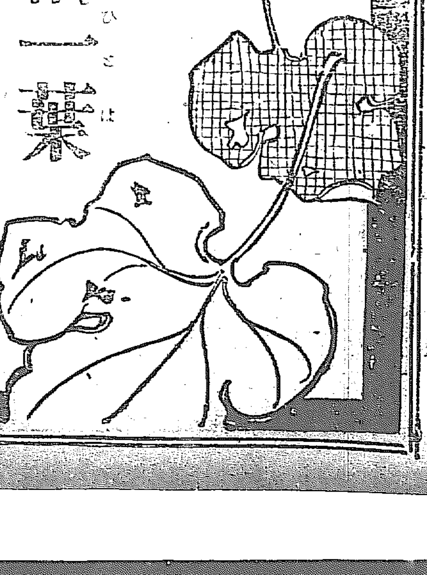
▲各地の市價 [illegible]

▲冷靜の裏面 昨日來、反の大變動を報じ來るも冷靜に看過し居れる當市場は一見買方なしでふ成行[illegible]

▲五日後場市價 [illegible]

平均値段 [illegible] 節 八圓五十八錢 八圓六十一錢 八圓六十一錢 八圓六十一錢 [illegible]





桐一葉

飛んで秋の心を知る時 忘れてならぬは

婦人良藥 中將湯の服用

今は時候の變り目

日增に募る冷氣が源因で 婦人病に罹る事多ければ

用心は臆病に限るの譬

今から中將湯召して

豫防を計るが何より大切

中將湯

中將湯主治効能

◎子宮病 ◎内膜炎 ◎こしけ ◎氣ふさぎ ◎肩のこり ◎難産流産 ◎血ぶさり

◎血の道 ◎惡阻 ◎下腹痛み ◎頭痛 ◎逆上頭痛 ◎産前産後 ◎月經不順

◎婦人神經 ◎白帶下 ◎胸先差込 ◎夜眠れず ◎腰足冷込 ◎つはり ◎經期腹痛

本舖 東京市日本橋通四丁目 振替口座東京六〇八番 津村順天堂本店 電話本局六十二、六十三番

大阪市大寶寺町堺筋南入 振替口座大阪四五六番 津村順天堂支店 電話南二十五番

◎中將湯は醫學博士諸大家の賞讚せる世界唯一の婦人良藥なり

○中將湯は世界各國到處の藥店にあり

定價 二日分 廿錢 四日分 卅五錢 一週間分 六十錢 二週間分 一圓十錢 三週間分 一圓六十錢 五週間分 二圓五十錢 十週間分 四圓五十錢

●加減湯定價 一週間分 七十五錢 四週間分 二圓五十錢

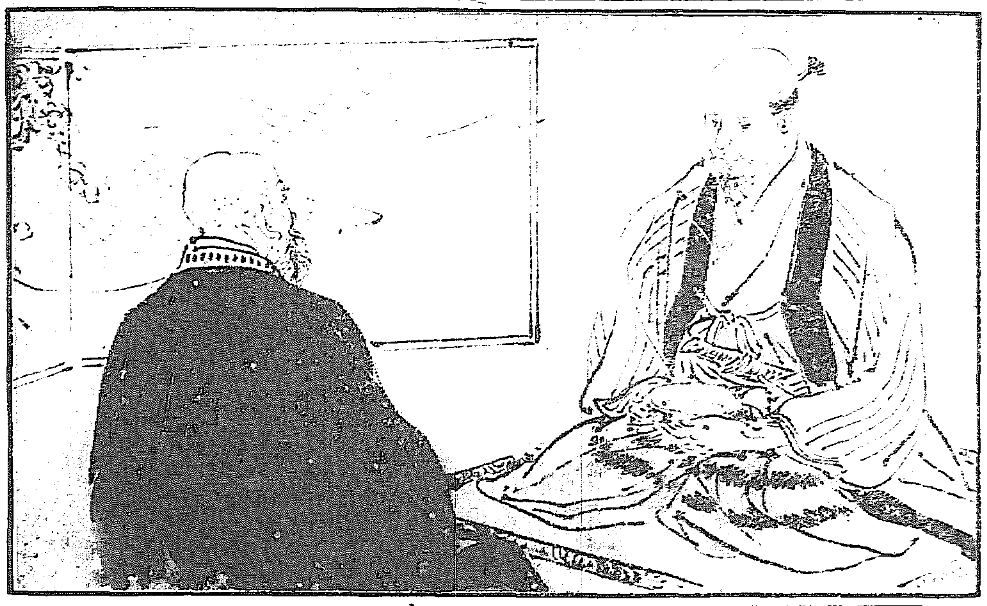
[illegible]

千生瓢（4）

須藤南翠作　筒井年峰畫

颶風の前（四）

美濃の寄手より日夜に逆する注進を聞いて、秀吉は深謀の圖に中つたのを、心私かに微笑むで居た。裡には攻城討滅の軍略に、鐵を研き劍を磨きながら、表には閑の聲を爐に聽る松風の音に代へて、三輪の月の小室に、茶三昧の遊びに餘念のない體であつた。相伴の前田玄以法印を顧みて、富貴立鶴の茶盌の後を拭てながら、



『岐阜攻の軍勢に、唯鬨の聲を揚げさせて、遠矢一つ射させぬ軍令、御坊いかに心得申さるゝか』

『長袖の身で何として。ぢやが守殿の寛慮大方は讀め申した』

法印も笑ひながら顏を見た。

『流石は法印、何と讀まれた』

『只は申さぬ。身が申す事正鵠に中らば、其お茶盌拜領の仕つらう』

『この立鶴をか』

『如何にも』

『さらば進せ申さう。いさ言はれい』

『岐阜は贈相國公發祥の名城、故中將殿の知しめしたる御遊覽、さればこそ長柄川を渉さず、遠巻にせらる御心中、恩義を守る御賢慮と見たは僻目か』

づッきりと言ひ放つて、密と出す手の上に、秀吉はその立鶴の茶盌を置いた。

『はゝはゝは、能う讀めたわ。讀めぬのは美濃勢どもぢや』

『岐阜殿は何と召され申した』

『三七殿は攻圍背肉の計で、今頃は味方ばかり疑つてお居やらう。周章ともは稲葉山の城兵ぢや』

『其が何と致いておざる』

『さらばお聞きやれ、此手の大將森武藏守、陣々に命じて、鬨の聲を揚げさせたぢや』

『如何も豫ての御軍令──』

『其聞いた城兵ども、寄手かゝると周章惑ひ、城門開いて打ち出た氣』

『さても氣遮の城兵、寄手の大將誰おざりまする？』

『齋藤玄蕃頭、鹿伏莵右京亮とある何がさて同じ美濃士、流石に耻を知る者共、火花を散らして戰ふたぢや』

『御意、御意、敵も味方も見知り越し、こりや一歩も退け申すまい』

『寄手は新手を取り更へ引き替へ、こゝを先途と戰ふ程に、城方退き色見えつる折から、蓬なし者共、敵に後を見する法やあると、踏み留まつて防戰したのが、岡本五右衛門、稲葉新六郎の兩人ぢや』

『敵ながら天晴武者振』

『是で戰ひは相引と相成つたおや。敵の討死五十九人、負傷が百五十人、味方は討死四十六人、負傷の者百三十餘人のよし、長一より申しました』

『誠御勝利おざりまする。戰ひは相引とあらうとも、討死、負傷の新手を得られぬ城方に、正しく敗軍おざります』

法印は快よげに笑つた。秀吉も莞爾と微笑むで、

『美濃は三城ながら遠巻に捲いて、別々に取圍め置いたれば互ひに救ふ術もならぬ、まつた勢州の瀧川へも既に押への人數を出した程に、是も美濃へは得向はれまい、頼むは柴田只だ一人、岐阜殿の使ひ再三に及ぶであらう、修理奴を誘き出す術には某の此處に在るは妙でない、明日は長濱番場に押ふる體にして、伊賀路より勢洲に旗を出し、瀧川奴に一泡吹かせくれうか喃』さうち微笑みつゝ、やをら座を起ち上つた。法印も立鶴の茶盌をさゝげて、悦ばしげに茶室を出た、秀吉は路次の出口に足を留めて

『伊勢海老はいかめしうても、只一網で手にも入らう、北國熊は一骨おや、勢子も大分に傷むであらう、我等も汗を絞るであらうが、根が秀吉の智謀の檻に入つた獸、跳ようが、躍らうが最早運命は窮り申したよ』

『いかさま左様もおじやりませう。去りながら、修理殿愈々旗を出される場合、去就に迷うて苦む者はおざりますまいな』

法印は心から懸念らしかつた。

『又左が事は思はぬではないが、彼人の身内には、長九郎左衛門居申すぢや。斯いふ事には物馴れた古强者、必ず思慮を運らして、修理への義理、我等への情誼、双方立てる工夫おざらう』

秀吉はもう、其末まで、歴然と見え透いて居るかのやうであつた。

小川家畜醫院
京城明治町

大割引 自動車
新羅一千年間の舊都（朝鮮の奈良）慶州に遊べ
京釜線大邱驛より快走夕ツタ二時間と半！更らに一時間にして迎日灣浦項港に達す

●今年の秋から ジヤパンタイムス學生號少年號を教科書として用ゆる學校が非常に激增し今日にては學生會社員軍人の間に英語を學ぶ唯一の機關となれる由

○御大典記念號製網機完成 大阪西區本田通二帝國商社にては完全なる記念製網機を一部に一臺宛製造實費以下にて提供し尙長期貸附すと希望者は同社へ照會すべし

パール
ポマード
「ドナタ」「にもよい」
世界的の髪油
「パールを」つかへば
どこへ出ても「ひけは」「とらぬ」
關西代理店
大阪 平尾賛平支店

煉香油
「一筋の」「すゞなやかで」
「毛があつまつて」美しい髪
「房々した」「美しい」「髪となる」
ラヂウム液本舗
東京 平尾銑也商店

開業一週年記念
圖書特別廉賣
▲期間 大正四年九月十六日より十一月十五日まで
▲部數僅少賣切れぬ内至急御註文あれ
目録は何時にても御申越次第呈上す
東京麴町區元園町
文明書院
電話番町一〇一五番
振替東京一七二〇番

目録送呈
◎完全無比の實用經濟の覇王グラス萬年筆
米國パアレット會社製 眞正十四金ペン先付 最新インキ止式
●諸官衙銀行會社其他團體にて多數御購買の向へは特に割引仕候
●朝鮮總代理店 京城本町二丁目（電話長四五〇）振替京城二五六番
釘本藤次郎本店

登録商標
SUPERIOR QUALITY
REGISTERED
曠古の御大典を祝するに際し殊に御必要な帽子は「品質善良なる」
日の出向鳥印帽子
シルクハット　フエルト小兒帽子
中山帽子　鳥打帽子　略帽
中折帽子　小兒用帽子
學生諸君の最も御必要なる特價品
日の出向鳥印學生帽子
◎御最寄の帽子雜貨店にて是非御買上の程希上候
◎類似商標澤山有之に付御買求の節は商標に御注意相成度候
製造發賣元 東京 吉安商店

小兒用 大學目藥
十歲以下の小兒の眼病には特に研究配劑せる小兒用大學目藥を御用ゐあれ
●各藥店にあり定價十錢

◎保險案内の御請求を乞ふ
太平生命保險株式會社
京城支部（京城黄金町二丁目）
電話一四二〇番

消化と毒けし
仁丹
主効
▲惡疫豫防 ▲中暑中寒 ▲食慾不進 ▲消化不良 ▲頭痛目眩
奮闘の季節！
外出、旅行、運動、劇務に
到る處で重寶な四季容器から
仁丹を御活用あれ！
金言
談話は銀にして沈默は金なり……（西哲）
四季容器實寫圖
▲仁丹五十錢包に無代添付す

最上醤油
朝鮮仁川港
高杉醤油釀造場

汽船釜山出帆廣告
○門司、神戸、大阪行 小倉丸 十月 日後五時出帆
○元山城津浦潮行 小倉丸 十月十四日後十時出帆
○門司、神戸、大阪行 立神丸 月 日後五時出帆
○元山、清津、浦潮行 立神丸 十月 七日後十時出帆
○元山、西湖津、新浦、城津、清津行 第三琴平丸 十月 七日後九時出帆
○門司、宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 十月十三日後六時出帆
○佐須奈、嚴原、壹岐、博多行 大興丸 毎月二日九日十六日廿三日廿六日 午後十時出帆
本船取扱店 大池回漕部

尼崎汽船仁川出帆
○群山、木浦、釜山、下關、神戸、大阪行
秀吉丸 十月 七日後四時出帆
君が代丸 十月十一日後四時出帆
神代丸 十月十五日後四時出帆
大有丸 十月 日後四時出帆
第二太湖丸 月 日後五時出帆
○群山、大阪行
土海丸 日後四時出帆
仁川海岸通二丁目 電話五十九番 高杉回漕部

阿波共同汽船仁川出帆
第一共同丸 芝罘、大連行 十月 七日後七時入港 十月 八日前九時出港
芝罘にて青島行定期船に接續し大連にて南滿洲鐵道會社と同船運賃にて通し切符取扱仕候
第一阪鶴丸 城津、清津、浦鹽行（元山出帆） 月 日後九時出港
第三共同丸 西湖津沿岸各港を經て雄基行（元山出帆） 月 日前八時出帆
阿波國共同汽船株式會社
仁川代理店 本町一丁目（電話一〇八番） 山下回漕部
元山代理店 （電話二四四七番） 田口回漕部
京城取次店 南大門通（電話二六八、二〇一七） 河村運送店

大阪商船仁川出帆
○中國四國沿岸各港行一割引を以て連絡切符發賣仕候
×○群山、木浦、釜山、關門、神戸、大阪行 漢城丸 十月 八日 午後五時出帆 京州丸 十月十一日 須磨丸 十月 日
××○木浦、釜山、長崎行（▲は嚴原に寄港） 安東丸 十月 九日 ▲天智丸 十月十八日 午後二時出帆
××○鎮南浦、大連行 安東丸 十月 九日 天智丸 十月十八日 午後二時出帆
○○鎮南浦、關門、神戸、大阪行 月 日 月 日 正午五時出帆
△△○群山、釜山、横濱行 千珠丸 十月 九日 チヨイサン丸 十月廿一日 午後四時出帆
△△○大連直行 千珠丸 十月廿七日 チヨイサン丸 十月廿五日 正午出帆
○元山、清津、浦潮行（釜山出帆） 地久丸 十月十七日 神宮丸 十月 七日 ▲城津丸 十月十二日 午後九時出帆
○上海、基隆、打狗行（大連出帆） 基隆丸 十月廿九日 新高丸 十月十一日 午前四時出帆
御注意
○朝鮮鐵道及南滿洲鐵道會社との聯絡切符發賣仕候
○御乘船客は本船出帆約一時間前迄に御乘船被下度候
○×印は一等客御斷り △印は四等客御斷り
仁川切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話二〇番 五五〇番
京城切符發賣所 内國通運會社京城支店 電話七八〇番

朝鮮郵船
全羅丸 十月十五日
京畿丸 十月廿五日
黄海丸 十月 九日
成鏡丸 十月十九日 釜山發
昌平丸 十月 十日
鏡城丸 十月 六日 元山發
忠清丸 十月 七日
伯清丸 十月十四日 元山發
永興丸 毎月廿八回 元山發
嘉島丸 十月 九日 釜山發
江陵丸 毎日
江陵丸 （釜山浦項）發
三浦丸 十月 八日 釜山發
海州丸 三日目毎 木浦發
慶興丸 十月 六日 木浦發
公州丸 十月十三日 木浦發
宗信丸 十月 六日 仁川發
江原丸 十月 六日 仁川發
麗水丸 十月 九日 仁川發
普州丸 十月十四日 仁川發
金州丸 毎日午前 仁川發
南陽丸
平安丸 十月十六日 十月十三日 群山發 若松發

日本郵船仁川出帆
○大連太沽牛莊行 高砂丸 十月廿一日 正午出帆 三河丸 十月 八日 正午出帆 相模丸 十月三十日 正午出帆
○青島直行（大連芝罘行） 江原丸 月 日 出帆
仁川海岸町一丁目 電話十一番 堀回漕部